

令和5年度（2023年度）

教育委員会の点検・評価報告書

令和4年度（2022年度）事業対象



高崎市教育委員会

基本方針

本市では、「教育と人づくり」を基本方針の一つに掲げて新しいまちづくりに取り組んでおり、一人ひとりの子どもたちや市民に寄り添う教育行政の充実を図っています。また、子どもたちがいじめのない環境で健やかに、伸びやかに、個性豊かに育つため、学校や地域社会で守り育てる環境を整えることが大事であると考えています。

「教育都市高崎」の創造を目指し、子どもたちの命を守る危機管理の強化、子どもたちや保護者、地域が誇れる学校教育の充実、子育てや親としてのあり方など家庭教育の充実、市民の自己啓発のための生涯教育の充実、人生を豊かにするためのスポーツの推進などに取り組んでいきます。

高崎市教育大綱の施策の視点

1. 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成
2. 子どもたちの心身の健康と体力の向上
3. 安全で多機能な教育環境づくりの推進
4. 地域力を育む社会教育の充実
5. 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

教育委員会教育長及び委員

職 名	氏 名
教 育 長	小 林 良 江
教育長職務代理者	神 宮 嘉 一
委 員	田野内 明 美
委 員	塩 野 有 希
委 員	新 井 英 夫

目 次

I 令和4年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について	1
II 教育委員の活動状況	4
III 会議実績	5
IV 点検・評価結果	
＜点検評価シート＞	
生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成	7
子どもたちの心身の健康と体力の向上	27
安全で多機能な教育環境づくりの推進	36
地域力を育む社会教育の充実	38
歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	52
V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見	70
VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性	78

I 令和4年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について

高崎市教育委員会では、平成13年に21世紀の教育行政を長期的な視野で調査・研究し、生涯にわたる教育のあり方や方向性を「高崎市教育ビジョン」として策定し、さまざまな教育課題に取り組んできました。平成20年4月には、新たな課題の発生や市町村合併により、大きく変化した教育環境に対応するため、「教育ビジョン」の改定を行いました。

その後、本市では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で開催する「総合教育会議」において、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として「高崎市教育大綱」を策定しました。「教育ビジョン」の計画期間は満了しましたが、その趣旨や施策・事業等は「高崎市教育大綱」に基づく施策として承継されています。

教育委員会では、「高崎市教育大綱」に掲げる5つの施策の視点に基づく教育行政と重点施策の推進を図るため、年度ごとに「高崎市教育行政方針」を策定し、当該年度の教育施策の基本的な考え方や方策を決定するとともに、各事業の内容や目標を具体的に示しています。

この点検・評価報告書は、「令和4年度教育行政方針」に掲げた施策・事業等の実施状況の評価検証するものです。対象となる令和4年度事業については、引き続き新型コロナウイルス感染拡大によるさまざまな影響があったものの、感染症対策を講じたうえで、実施方法の変更や代替策などにより、事業目的に向けた多くの取組を行いました。コロナ禍による影響と各種対応を踏まえたうえで評価検証を行い、今後の事業方針等を検討した結果についてお知らせします。

参 考

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育大綱

生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

取組

- 1-1-1 教育機関の連携強化
- 1-1-2 学力向上への取組
- 1-1-3 いじめ対策の更なる強化
- 1-1-4 ゆとりある創造的な教育
- 1-1-5 家庭地域との連携強化
- 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上
- 1-1-7 特別支援教育の充実
- 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実
- 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進

令和4年度の取組（事業）

- 幼・保・小連携推進事業
- 子どもの学ぶ意欲向上事業
- 児童生徒の学力補充事業
- 英語教育指導事業
- 学力アップ推進事業
- いじめ防止対策事業
- やるベンチャーウィーク推進事業
- 「気になる子」対策事業
- 読書活動推進事業
- 学校・家庭・地域連携事業
- 学校教育力向上対策事業
- 通級指導教室推進事業
- 教育調査研究・研修事業
- 教育支援センター推進事業

- 1-2-1 確かな学力の確立
- 1-2-2 キャリア教育の推進
- 1-2-3 国際理解教育の推進

- 学力向上推進事業
- キャリア教育推進事業
- 国際教育推進事業

子どもたちの心身の健康と体力の向上

取組

- 2-1 心と体の健康づくり
- 2-2 体力の向上と丈夫な体づくり
- 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保
- 2-4 魅力ある学校給食づくり
- 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成

令和4年度の取組（事業）

- 児童生徒等健康管理対策事業
- 学校保健充実事業
- 部活動充実事業
- 学校体育充実事業
- 交通教室事業
- 給食充実事業
- 給食運営事業
- 小学生自然体験活動事業
- 「健康教育」啓発事業

安全で多機能な教育環境づくりの推進

取組

- 3-1 安全・安心な学校づくり
- 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり
- 3-3 地域性を発揮させた学校づくり
- 3-4 環境にやさしい学校づくり

令和4年度の取組（事業）

- 学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）
- 学校施設整備事業（高等学校）
- 学校体育施設開放事業

地域力を育む社会教育の充実

取組

- 4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進
- 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進
- 4-1-3 人権文化の創造
- 4-1-4 家庭教育の振興
- 4-1-5 学習支援体制の整備
- 4-1-6 平和な社会生活の創造
- 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進
- 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備

令和4年度の取組（事業）

- 地区推進体制整備事業
- 公民館運営事業
- 生涯学習推進事業
- 人権文化創造事業
- 家庭教育支援事業
- 視聴覚教育事業
- 公民館整備事業
- 社会教育施設改修事業
- 市民活動センター管理運営事業

- 4-2-1 図書館資料の充実
- 4-2-2 図書館ネットワークの活用
- 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり
- 4-2-4 子どもの読書活動の推進
- 4-2-5 関係諸機関との連携

- 図書館管理運営事業
- 市民生活に役立つ図書館づくり事業
- 子どもの読書活動推進事業
- 関係諸機関との連携事業

歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

取組

- 5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進
- 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり
- 5-3 市民への文化財情報の提供
- 5-4 文化財に親しむための環境づくり
- 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備
- 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり
- 5-7 民俗資料の収集と展示
- 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動
- 5-9 市民に開かれた資料館の運営
- 5-10 市民の学習活動の支援

令和4年度の取組（事業）

- 文化財保存活用地域計画の策定・推進事業
- 日高遺跡保存整備事業
- 箕輪城跡保存整備事業
- 北谷遺跡保存整備事業
- 上野国多胡郡正倉跡保存整備事業
- 山名古墳群保存整備事業
- 「世界の記憶 上野三碑」関連事業
- 文化財保存活用事業
- 埋蔵文化財調査事業
- 多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業
- 上野国分尼寺跡範囲確認調査事業
- 文化財調査事業
- 歴史民俗資料館運営事業
- 観音塚考古資料館運営事業
- かみつけの里博物館運営事業
- 多胡碑記念館運営事業
- 吉井郷土資料館運営事業
- 埋蔵文化財センター整備事業

II 教育委員の活動状況

年	月	日	曜日	行事名	場所
4	4	5	火	定例校園長会議	31会議室
		28	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	5	24	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	6	30	木	教育委員会定例会	教育委員会室
				定例校園長会議	総合保健センター 第1会議室
	7	5	火	学校・警察連絡協議会視察研修	前橋家庭裁判所
		28	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	8	9	火	人権教育講演会	音楽センター
		25	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	9	29	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	10	4	火	定例校園長会議	31会議室
		20	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	11	4	金	定例校園長会議	31会議室
		10	木	市町村教育委員会研究協議会（第1日目）	昌賢学園まえばしホール
		11	金	市町村教育委員会研究協議会（第2日目）	群馬会館
		17	木	教育委員会定例会	教育委員会室
12	10	土	市PTA連合会研究大会	市文化会館	
	22	木	総合教育会議	庁議室	
5	1	17	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	2	9	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	3	16	木	教育委員会定例会	教育委員会室

Ⅲ 会議実績

日 時	議 案
令和4年 4月28日(木) 午後2時～	報告 ・令和4年度における学校(園)施設の工事計画について
5月24日(火) 午後2時～	1 令和4年度高崎市一般会計補正予算(6月議会提出分)教育費見積書の提出について 報告 ・図書館システムの入替作業に伴う業務の休止について
6月30日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について(高崎市立高崎経済大学附属高等学校令和5年度使用教科用図書採択) 2 高崎市社会教育委員の委嘱について 3 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について 報告 ・第10回高崎学検定及び第9回高崎学検定解説ブックについて
7月28日(木) 午後2時～	1 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 2 令和5年度使用教科用図書採択について
8月25日(木) 午後2時～	1 令和4年度高崎市一般会計補正予算(9月議会提出分)教育費見積書の提出について
9月29日(木) 午後2時～	1 令和4年度教育委員会の点検・評価報告書について 2 令和4年度高崎市文化財保護賞候補者の推せんについて 3 令和4年度末県費負担教職員人事異動方針について 報告 ・令和4年度高崎市いじめ防止こども会議の開催結果について ・令和4年度各種音楽コンクール等の実績について ・令和4年度中体連総合体育大会の結果について
10月20日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について(訴えの提起) 報告 ・令和4年度高崎市公民館研究集会の開催について ・令和4年度優良公民館群馬県教育委員会表彰の受賞について
11月17日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について(訴えの提起) 2 臨時代理の承認について(訴えの提起) 3 臨時代理の承認について(訴えの提起) 4 令和4年度高崎市一般会計補正予算(12月議会提出分)教育費見積書の提出について 報告 ・令和4年度生涯学習フェスティバルの開催について ・第10回高崎学検定の実施結果について

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度日本PTA全国協議会長表彰の受賞について ・第28回群馬県高等学校総合文化祭及び第36回群馬県高校新聞コンクールの結果について
令和5年 1月17日(火) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰の受賞について ・令和4年度文部科学大臣表彰等の受賞について ・令和4年度優良公民館文部科学大臣表彰の受賞について
2月9日(木) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度高崎市教育行政方針について 2 令和4年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について 3 県費負担教職員の人事について 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰の受賞について ・令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰等の受賞について ・令和4年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について ・令和4年度高崎市立学校卒業式等の日程について
3月16日(木) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> 1 高崎市立幼稚園規則の一部改正について 2 職員の人事について

IV 点検・評価結果

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《義務教育までの教育に関する取組》	担当課
		教職員課 学校教育課 教育センター
取組	1-1-1 教育機関の連携強化 1-1-2 学力向上への取組 1-1-3 いじめ対策の更なる強化 1-1-4 ゆとりある創造的な教育 1-1-5 家庭地域との連携強化 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上 1-1-7 特別支援教育の充実 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進	

事業名	幼・保・小連携推進事業（取組 1-1-1）							
事業の目的	公私立の別なく、幼稚園、保育所（園）、認定こども園の連携を深めて幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深め、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の充実を図る。							
実施状況	<p>全公立・私立幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校で組織する幼保小連絡協議会では、市内を13ブロックに分け、公開保育・授業や保育・授業研究会、実技研修会、講演会等を実施している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、公開保育・授業、実技研修会の実施は見合わせた。代わりにブロックごとの研修会や情報交換会を行うとともに、講演会をオンデマンドにより実施した。</p> <p>◆「研修会等の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	令和4年度	90%	100%
年度	目標	実績						
令和4年度	90%	100%						
評価検証	<p>「学びの基盤としての幼児教育：小学校への架け橋期を見通す」をテーマに、白梅学園大学名誉教授の無藤 隆氏による講演会をオンデマンド配信により実施した。各校園所の研修やブロックでの研修に活用してもらうことで、架け橋期の教育の重要性について幼保小全体で理解を深める機会となった。講演会後のアンケートでは、「研修会等の内容に満足した」と答えた割合が100%となった。</p> <p>また、コロナ禍により、令和2～3年度とブロックによる公開保育・授業の実施を見合わせた。4年度は、各ブロックの創意工夫により、講師招聘によるワークショップ、テーマごとの実践発表、ZOOMによるオンラインでの情報交換会や研修会を実施した。各ブロックからは「3年ぶりに交流ができて、今後、各校園所間との連携が取りやすくなった」という感想が寄せられた。</p>							

今後の方針	<p>学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続については、今日的教育課題の一つである。子どもの発達の段階を見通した架け橋期の充実を目指し、幼保小の教員・保育士がブロック活動等での交流や対話を通して、互いの教育・保育について理解し合えるようにする。</p> <p>また、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて小学校低学年における教育活動が実施できるよう、講演会や実技研修会の内容を工夫して開催し、特に小学校教員の理解を深めていく。</p> <p>引き続き本事業を推進し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の充実に努める。</p>
-------	--

事業名	子どもの学ぶ意欲向上事業（取組 1-1-2）								
事業の目的	確かな学力の向上を図るために、単元構想に基づく個に応じたきめ細かな指導を実践し、児童生徒がわかる授業づくりの充実に努める。								
実施状況	<p>教師の専門性を生かした教科担任制、学習の場面や児童生徒の実態に応じた少人数指導やティームティーチングなど、指導体制の工夫を組織的に行い、個に応じたきめ細かな指導に努めた。</p> <p>また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、計画訪問や授業研究要請訪問、出前講座等を通して、単元構想及び学習過程スタンダードに基づく授業づくりを支援し、教師の授業力の向上に努めた。</p> <p>1人1台タブレット端末の活用については、令和4年度は、2年度に作成・発行した「高崎GIGAスクール構想における授業実践」に続く発展編として、「高崎GIGAスクール構想における授業実践Ⅱ」を作成・発行した。本冊子の活用事例等を参考にし、効果的にICTを活用した授業改善を進めることができるように示した。</p> <p>◆「授業がわかる」と答えた児童生徒が 8割以上いる学校の割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  <p style="text-align: center;">中学校での授業の様子</p> </div>	年度	実績	令和2年度	99%	令和3年度	100%	令和4年度	100%
年度	実績								
令和2年度	99%								
令和3年度	100%								
令和4年度	100%								
評価検証	<p>組織としての力を生かした取組や、単元を見通した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善などを通して学力向上に努めた結果、「授業がわかる」と答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合が100%となった。</p> <p>各学校では、校内研修においてタブレット端末を活用した授業改善に取り組み、研究授業や授業検討会を通して、効果的な活用に関する研修を進めることができた。</p>								

今後の方針	<p>確かな学力の向上は本市学校教育の重点項目である。今後も単元構想及び学習過程スタンダードを生かした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、児童生徒が主体的に学び、一人ひとりがわかる授業づくりを充実させていく。</p> <p>また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、昨年度作成した「高崎GIGAスクール構想における授業実践Ⅱ」を各校において校内研修等で活用することにより、タブレット端末活用の学校間格差や教員間格差を縮め、タブレット端末の効果的な活用を市全体で推進していく。</p>
-------	--

事業名	児童生徒の学力補充事業（取組1-1-2）																		
事業の目的	児童生徒の学力を確かなものにするため、授業時間以外にもさまざまな機会をとらえて学力補充に取り組む。																		
実施状況	<p>英語学習への意欲の向上と英語力の向上を目的に、夏期休業中に小学生5、6年生を対象とした「イングリッシュフェスタ」と中学生を対象とした「イングリッシュサマースクール」をオンラインで実施した。</p> <p>両事業ともに、タブレット端末を活用し、児童生徒2～3人に対して1名のALTをオンラインでつなぎ、児童生徒がALTとできるだけ多く会話できるようにし、英語力の向上を図った。</p> <p>◆「イングリッシュフェスタ」に「満足した」と答えた児童の割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>95%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「イングリッシュサマースクール」に「満足した」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>95%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、数学への興味・関心を高めることを目的に、2学期中の日曜日を利用して、中学生を対象とした「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座を6回開催した。</p> <p>◆「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座に「満足した」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和4年度	95%	98%	年度	目標	実績	令和4年度	95%	100%	年度	目標	実績	令和4年度	95%	95%
年度	目標	実績																	
令和4年度	95%	98%																	
年度	目標	実績																	
令和4年度	95%	100%																	
年度	目標	実績																	
令和4年度	95%	95%																	
評価検証	<p>「イングリッシュフェスタ」と「イングリッシュサマースクール」をオンラインで実施したことにより、児童生徒は自宅にいながら参加できるとともに、ALTと個別に多く会話できたことによって、より満足度の高い結果となった。課題としては、家庭の通信環境が不安定で途切れることがあり、十分に活動できなかった児童生徒がいたため、当日の通信環境の確認を促す必要がある。</p> <p>「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座では、数学専門教師を活用することで、事業内容の充実を図ることができた。事業に参加した生徒からは、数学の学習に対する高い意欲が伺えた。</p>																		

今後の方針	<p>教科の学習に興味・関心を持たせ、学力を更に伸ばしていくことは、確かな学力の向上を目指す本市の重点課題である。各事業の内容の充実を図るとともに、事業を更に周知することで、より多くの児童生徒が目的をもって事業に参加し、児童生徒の学力向上につながるよう努めたい。</p> <p>「イングリッシュフェスタ」及び「イングリッシュサマースクール」については、オンラインと対面の両方のメリットを検証し、内容に応じより効果的な実施方法を検討していく。</p> <p>また、国際化する社会において主体的に活躍できる児童生徒の育成を目指し、コロナ禍により実施を見合わせていた海外派遣事業について、本市の児童生徒の実態に合わせた内容となるよう見直しを行い、実施できるよう検討を進める。</p>
-------	--

事業名	英語教育指導事業（取組1-1-2）																								
事業の目的	英語に興味や関心をもち、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するため、英語指導助手（ALT）を市内全小中学校・市立高等学校に配置し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。																								
実施状況	<p>小学校58校、中学校25校、高等学校1校へ英語指導助手の全校配置を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、ALT招致が遅れることもあったが、臨時的ALTの任用や複数校の掛け持ち等配置を工夫し、常に全校でALTによる授業実施ができる体制を整え、英語によるコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>◆ALTの配置数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>84人</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">ALTを活用した小学校での授業の様子</p> <p>◆ALTによる延べ授業時間数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>50,062時間</td> <td>43,817時間</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>50,285時間</td> <td>44,963時間</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>50,285時間</td> <td>47,741時間</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和2年度	84人	71人	令和3年度	84人	84人	令和4年度	84人	84人	年度	目標	実績	令和2年度	50,062時間	43,817時間	令和3年度	50,285時間	44,963時間	令和4年度	50,285時間	47,741時間
年度	目標	実績																							
令和2年度	84人	71人																							
令和3年度	84人	84人																							
令和4年度	84人	84人																							
年度	目標	実績																							
令和2年度	50,062時間	43,817時間																							
令和3年度	50,285時間	44,963時間																							
令和4年度	50,285時間	47,741時間																							

評価検証	<p>小学校では、担任等とALTとのチームティーチングを通して、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しみ、英語でコミュニケーションを図ることへの興味・関心の高揚を図った。また、本市では教育課程特例校として、「高崎市小学校外国語活動・外国語指導計画」に基づいた指導を1年生から行い、義務教育9年間を見通した英語教育を進めることができた。</p> <p>中学校では、英語担当教諭とALTとのチームティーチングを通して、生徒の英語によるコミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、4技能をバランスよく育成するための授業改善を進め、英語担当教員の指導力の向上を図った。</p> <p>これらの取組により、4技能型外部試験（GTEC）では、昨年度を上回る好成績となった。また、コロナ禍においてもALTの研修をオンラインで実施する等の工夫を行うことによって、ALTの指導力を向上させ、英語教育の充実を図ることができた。</p>
今後の方針	<p>英語に興味・関心をもち、英語の活動や学習に意欲的に取り組み、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた児童生徒を育成するために、ALTの研修を重ね、指導の質的向上に努めるとともに、小中高等学校における英語教育の充実を図っていく。また、小学校においては、教育課程特例校を継続し、「高崎市小学校外国語活動・外国語指導計画」に基づき英語教育を推進していく。</p>

事業名	学力アップ推進事業（取組1-1-2・1-1-5）												
事業の目的	<p>各学校区において、地域運営委員会による学習会や9地区での中学生休日学習相談ステーションを開催し、保護者や地域、学生など地域の教育力を活用して、放課後や休日を利用した児童生徒の学力向上に向けた取組を推進する。</p>												
実施状況	<p>市内全ての小中学校区において、地域運営委員会を開催した。地域の教育力を活用し、児童生徒に対して、放課後や土曜日等に学習の時間と場所を提供し、各学校区で、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学力向上のための学習会（学力アップ大作戦）を実施した。また、年度当初に各学校区の学力アップ大作戦のコーディネーターを集めた説明会を開催し、各学校区での取組が円滑に進むようにした。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションについては、毎週日曜日の午後1時30分～4時30分の間、市内9つの公民館等を利用し、5月から2月末まで市内在学または在住の中学生なら誰でも参加できる学習の場を提供している。講師は大学生等のボランティアが務め、数学・英語の教科について学習の相談を行っている。</p> <p>◆学力アップ大作戦参加児童生徒数及び延べ開催回数</p> <table border="1" data-bbox="371 1832 970 2029"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>33,874人</td> <td>1,356回</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>36,255人</td> <td>1,500回</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>42,498人</td> <td>1,897回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績		令和2年度	33,874人	1,356回	令和3年度	36,255人	1,500回	令和4年度	42,498人	1,897回
年度	実績												
令和2年度	33,874人	1,356回											
令和3年度	36,255人	1,500回											
令和4年度	42,498人	1,897回											

◆学力アップ大作戦への地域ボランティアの参加者数

年度	実績
令和 2 年度	8,477 人
令和 3 年度	11,533 人
令和 4 年度	11,955 人

◆中学生休日学習相談ステーション参加生徒数

年度	実績
令和 2 年度	443 人
令和 3 年度	460 人
令和 4 年度	483 人



学力アップ大作戦



中学生休日学習相談ステーション

評価検証

コロナ禍により、実施回数を減らしたり、参加人数を制限したりしながらも、すべての学校区で実施することができ、参加児童生徒数や開催回数等も増加した。

また、各学校区のコーディネーターを集めた説明会の実施により、学力アップ大作戦の実施方法の周知と情報交換を行うことができ、各学習会の円滑に運営と児童生徒の学習意欲向上につなげることができた。

中学生休日学習相談ステーションは、9か所の会場を全て固定した平成30年度より1回あたりの参加人数は毎年増加しており、令和4年度においても利用生徒が増加した。検温や座席間を空ける等の感染症対策を徹底し、安心して参加できる環境を提供したことが要因と思われる。

今後の方針

学力アップ大作戦は、より地域の実情に応じて事業を実施できるよう、地域運営委員会に委託している。今後も児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かして取組内容の充実を図っていく。

中学生休日学習相談ステーションは、ボランティア講師の確保が必要であり、今後も大学生を中心に呼びかけを行っていく。また、より多くの生徒が参加できるよう、タブレット端末を活用した周知等、各中学校からの工夫した呼びかけを行っていく。

事業名	いじめ防止対策事業（取組 1-1-3）
事業の目的	児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指して、いじめ防止に焦点を当てた教育活動を推進する。
実施状況	<p>平成24年度から「いじめ防止プログラム」による取組を小中高一斉に行っており、教育委員会では、以下の取組等を推進してきた。</p> <p>○いじめ防止担当教諭研修会の実施 研修会では、学校生活における「いじめの芽」を早期に発見する視点や感性を磨く研修を例年2回実施しており、令和4年度はオンラインで実施した。</p> <p>○子どもを対象とした「いじめ防止こども会議」「中学生リーダー研修会」 「いじめ防止こども会議」では、例年各小中学校の代表者による話し合いを通して新たな提言をつくっており、令和4年度はいじめ等でつらいときのサインの出し方と受け止め方である「高崎サイン」と「高崎サインの受け止め方」を策定した。「中学生リーダー研修会」では、ネットいじめの防止に向けた学習プログラム「ネットいじめ防止プログラム」の体験と改善に向けた協議を行った。いずれも、オンラインで実施した。</p> <p>○いじめ防止ファイルの作成・配布</p> <p>これらの取組を継続的に実施しながら、子どもたちがいじめの持つ問題性に気づき、いじめをなくすには自分たちはどうしたらよいかを考え、子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図ることを通して、いじめの未然防止に結び付けている。</p> <div data-bbox="387 1211 914 1503" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">オンラインでの 「いじめ防止こども会議」の協議の様子</p>
評価検証	<p>「いじめ防止担当教諭研修会」では、いじめ防止対策推進法で定められたいじめ防止に向けた研修の充実を図るために、校内研修の方法を提案した。提案どおりに実施した学校もあり、教職員のいじめ防止に向けた資質の向上に資することができた。また、「いじめ防止こども会議」で策定した「高崎サイン」をもとに、各学校の児童会・生徒会を中心に独自のサインが作られ、いじめ防止に向けた児童生徒主体の取組が活性化した。</p>

今後の方針	<p>いじめ防止の取組を形骸化しないためには「継続」が必要である。令和4年度までの取組で、多くの成果物ができているが、それらが学校生活で継続的に活用できるように、再評価し、掘り下げていく必要がある。</p> <p>また、保護者や地域への発信により、学校、家庭、地域が連携・協働したいじめ防止活動を推進していくことも求められる。</p> <p>更に、インターネット上の表面化しにくい事象や、発達に障害を抱えた子どもが関わる事象、海外から帰国した子どもや外国人の子どもが関わる事象、性同一性障害や性的指向・性自認に関わる事象、災害により被災した子ども又は避難している子どもに対する事象、新型コロナウイルス感染症に関わる事象等のいじめの未然防止及び早期発見・早期解決のために、これらの内容に関する教職員研修をより充実させていく。</p>
-------	---

事業名	やるベンチャーウィーク推進事業（取組1-1-4）								
事業の目的	生きる力、豊かな心を育成するため、中学2年生を対象に地域や自然の中での職場体験や福祉ボランティア体験など、生徒の関心に応じた体験活動を実施する。								
実施状況	<p>市内全中学2年生が原則として月曜日から金曜日までの連続した5日間、職場体験や福祉・ボランティア体験、地域の文化体験等を行い、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育んでいる。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながらの実施となったが、19校で事業所での体験活動を実施し、6校においては、感染症拡大防止の観点から、総合的な学習の時間を中心に講師を招いての職業講話、職業体験等の代替活動を行った。</p> <p>◆事業所での体験活動参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,302人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和4年度	2,302人	年度	実績	令和4年度	98%
年度	実績								
令和4年度	2,302人								
年度	実績								
令和4年度	98%								
評価検証	<p>コロナ禍であるが、学校による事業所を確保する努力と、事業所の方々の協力や保護者の理解により、16校で事業所での体験活動が実施できたことは大きな成果である。体験活動を終え、「役に立った」と答えた生徒の割合が高く、学校の事前、事後指導に加え、事業所の方々の指導等が充実していたことがうかがえる。</p>								
今後の方針	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、徐々に学校行事がコロナ前に戻りつつあるが、事業所によっては受入ができないことが考えられるため、今後も実施期間等の弾力的な対応を行っていく。</p> <p>今後も子ども一人ひとりの社会への接続や「働くこと」の現実や必要な資質・能力を子ども自身が意識できるよう、事前、事後学習や体験活動の充実を図っていく。</p>								

事業名	「気になる子」対策事業（取組1-1-4）																				
事業の目的	幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」の教育環境の充実を図り、きめ細やかな教育に対応する各園の取組を支援する。																				
実施状況	<p>気になる子対策補助金（私立幼稚園） 市内の私立幼稚園に対し、以下のとおり助成した。認定こども園に移行した幼稚園があるため、園数は減少している。</p> <p>◆助成した園数と金額</p> <table border="1" data-bbox="367 537 1077 739"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>10園</td> <td>8,280,000円</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>8園</td> <td>7,080,000円</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>7園</td> <td>5,520,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校支援員の配置（公立幼稚園） 市内の公立幼稚園に対し、以下のとおり配置した。幼児一人ひとりが楽しく有意義に園生活が送れるよう、特別な支援を必要とする幼児に寄り添った支援を行っている。</p> <p>◆学校支援員配置数</p> <table border="1" data-bbox="367 1075 774 1276"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	園数	金額	令和2年度	10園	8,280,000円	令和3年度	8園	7,080,000円	令和4年度	7園	5,520,000円	年度	実績	令和2年度	13人	令和3年度	12人	令和4年度	14人
年度	園数	金額																			
令和2年度	10園	8,280,000円																			
令和3年度	8園	7,080,000円																			
令和4年度	7園	5,520,000円																			
年度	実績																				
令和2年度	13人																				
令和3年度	12人																				
令和4年度	14人																				
評価検証	<p>私立幼稚園における「気になる子」への対応として、補助教員等を配置することで、クラス活動を円滑に進め、担任教諭の負担を軽減できた。</p> <p>公立幼稚園では、学校支援員を増員して配置することにより、特別な支援を必要とする幼児に対し、困り感に寄り添った支援ができる場面を増やすことができた。</p>																				
今後の方針	<p>障害の有無にかかわらず、一人ひとりの幼児に応じた支援や指導の必要性及び重要性が増している。今後も引き続き、本事業を実施し、私立幼稚園における保育環境の充実を図っていく。また、公立幼稚園においては、特別な支援を必要とする幼児の実態や教育的ニーズを把握し、学校支援員の計画的な活用や資質の向上を図っていく。</p>																				

事業名	読書活動推進事業（取組 1-1-4）									
事業の目的	学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を充実させるために、全小・中・特別支援学校に学校図書館指導員を配置し、学校での読書活動を支援し、学校図書館を活用した学習活動を推進する。									
実施状況	<p>平成20年告示の学習指導要領で、学校図書館への読書センター、学習・情報センターとしての機能がこれまで以上に求められたことを受け、23年度から各学校図書館の機能を更に高めるため、市の臨時職員として「学校図書館指導員」を全校に配置している。</p> <p>「学校図書館指導員」は、校長の指揮監督の下、学校図書館における図書の受入れ及び整理、児童生徒への図書の貸出し及び返却、学校図書館及び準備室の環境整備、読書活動の支援及びレファレンスなどを行っている。</p> <p>◆教員と学校図書館指導員が連携した授業を実施した学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="370 828 893 974"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>100%</td> <td>93.9%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>共通のテーマで集めた書籍を展示</p>	年度	目標	実績	令和3年度	100%	90.7%	令和4年度	100%	93.9%
年度	目標	実績								
令和3年度	100%	90.7%								
令和4年度	100%	93.9%								
評価検証	<p>各学校においては、職員や図書委員によるおすすめ本の紹介を始め、ビブリオバトル、ブックトークなど学校図書館指導員を核として多岐にわたる取組が行われている。また、共通のテーマで集めた書籍を展示することで、児童生徒が季節の移ろいを感じられるようにしたり、社会への興味関心を高めたりする工夫を行っている。</p> <p>教員と学校図書館指導員とが連携した授業については、国語科や社会科、総合的な学習の時間を中心に行われており、学校図書館を活用することにより、子どもたちの主体的な学びや効果的な学習活動につながっている。</p>									
今後の方針	平成29年告示の学習指導要領では、「学習・情報センター」としての役割がより一層求められている。各教科や総合的な学習の時間等における図書館の利用と、学校図書館指導員の授業での活用を一層進めるとともに、市立図書館と連携し、調べ学習において児童生徒が必要とする書籍の充実に努めていく。また、そのための学校図書館指導員の研修内容を充実させていく。									

事業名	学校・家庭・地域連携事業（取組 1-1-5）									
事業の目的	地域住民や保護者が有している知識・技術等を活用し、児童生徒の体験等を通じた学びを実現するとともに、開かれた学校づくりを推進していく。									
実施状況	<p>児童生徒の体験等を通じた学びを充実するとともに、開かれた学校づくりを目的として、多くの学校で、地域人材を活用した授業等を実施している。内容は、読み聞かせや、体育指導、農業体験補助、日本文化体験、タブレット端末操作補助等、多岐にわたっている。</p> <p>また、SDG s に向けた取組として、各校総合的な学習の時間等で学習や活動が行われている。具体的には地域の人材を招いてのSDG s ボードゲームの体験や、フードドライブの実施やエコ石鹸の制作等、地域のSDG s についての取組の学習など、各校で工夫した取組が行われた。</p> <p>また、各学校・園の研修テーマ等に沿った講師を招聘し、校・園内研修の充実を図るとともに、児童生徒への効果的な指導につなげている。内容は、各教科等の指導、プログラミング教育、人権教育等、多岐にわたっている。</p> <p>◆地域人材を活用している学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>80%</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>60%</td> <td>55%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 3 年度	80%	57%	令和 4 年度	60%	55%
年度	目標	実績								
令和 3 年度	80%	57%								
令和 4 年度	60%	55%								
評価検証	<p>半数程度の学校で、感染症対策を講じながら地域人材を活用した授業等を実施した。開かれた学校づくりや地域社会との連携・協働に向けた教育活動の工夫・改善が進み、活用内容が多様化してきている。令和4年度は、タブレット端末の設定に地域人材を活用した学校が11校あり、教員との連携により、小学校低学年児童に対する文字入力等基本操作に関する指導を行い、効果を上げた。</p>									
今後の方針	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、地域人材の更なる活用を進めていくとともに、地域人材を活用する際のねらいを明確にし、より効果的な活用につなげていく。</p>									

事業名	学校教育力向上対策事業（取組 1-1-6）									
事業の目的	子どもたちの生きる力を育成するため、人権教育講演会を開催し、教職員の質的向上を図る。									
実施状況	<p>令和4年8月9日、フォトジャーナリストの安田奈津紀氏を講師として招き、市内教職員を対象に人権教育講演会を開催した。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を例年の半数程度とした。参加者は学校園の校長のほか主任等要職につく教員や本市での勤務年数が浅い教員とし、本研修の内容が学校園に普及するようにした。</p> <p>◆人権教育講演会参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>1,800人</td> <td>732人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,800人</td> <td>820人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和3年度	1,800人	732人	令和4年度	1,800人	820人
年度	目標	実績								
令和3年度	1,800人	732人								
令和4年度	1,800人	820人								
評価検証	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、複数の案を作成・検討した上で、感染症の不安やリスクを極力抑えながら最大限の規模で実施することができた。参加者からは、紛争地、被災地におけるエピソードから平和に貢献する尊さとそれを支える教育の大切さについて考えることができたという声が多く聞かれ、教職員の資質向上に資する研修会となった。</p>									
今後の方針	<p>本市の未来を担う子どもたちに生きる力を育成するため、教職員研修を質的に充実させ、教職員の資質向上を図っていく。</p> <p>また、コロナの5類移行後も、開催にあたっては感染状況を注視し、開催方法や参加人数について慎重に検討をしていく。</p>									

事業名	通級指導教室推進事業（取組1-1-7）																								
事業の目的	支援を必要とする児童生徒に、通級指導教室において、障害の軽減・改善に向けた指導を実践する。また、保護者や担任への相談活動を充実していく。																								
実施状況	<p>心身に軽度の障害（言語、聴覚、情緒、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害）がある幼児、児童生徒に対して、障害の程度や特質等を把握し、その軽減と改善を図るための指導・援助を市内6教室（中央教室、中居教室、城山教室、金古教室、堤ヶ岡教室、下室田教室）で実施した。</p> <p>◆改善により退級した児童生徒数 ◆通級児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>56人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>幼児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>95人</td> <td>549人</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>106人</td> <td>569人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>131人</td> <td>627人</td> <td>43人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和2年度	53人	令和3年度	66人	令和4年度	56人	年度	中学生	小学生	幼児	令和2年度	95人	549人	86人	令和3年度	106人	569人	60人	令和4年度	131人	627人	43人
年度	実績																								
令和2年度	53人																								
令和3年度	66人																								
令和4年度	56人																								
年度	中学生	小学生	幼児																						
令和2年度	95人	549人	86人																						
令和3年度	106人	569人	60人																						
令和4年度	131人	627人	43人																						
評価検証	<p>児童生徒数の増加傾向が見られるが、通級指導教室による指導により、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、障害の軽減・改善のための指導を行うことができた。通常の学級における授業においてもこの指導の効果が期待できる。</p> <p>通級指導教室による指導を充実させるために、中央教室を中核としてさまざまな研修等が実施できた。各教室においても指導教員のスキルアップを図るための研修や在籍校との情報共有を行い、児童生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導ができるよう努めることができた。</p>																								
今後の方針	<p>通常学級に在籍する心身に軽度の障害（言語・聴覚・情緒・LD・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害）のある児童生徒で通級の指導を望む数は増加傾向にある。今後も本事業を推進し、特別な支援を必要とする児童生徒の障害の軽減・改善を図っていく。</p> <p>また、通級指導教室による指導の効果が通常の学級においても表れるように、通級指導教室の担当者と在籍校の学級担任が十分な情報交換をしながら、児童生徒への適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p>																								

事業名	教育調査研究・研修事業（取組 1-1-8・1-1-9）																					
事業の目的	学校教育に関連するさまざまな教育課題に対する調査研究や課題解決に向けた研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。																					
実施状況	<p>高崎市教育センター人材育成研修システムに基づき、教員のキャリア段階に応じた経年研修、職務遂行に必要な知識・技能の習得及び指導力等の向上を図る職能研修、各教科領域に関わる実践力や今日的な教育課題解決に関わる力の向上を図る専門研修等を実施した。また、市・学校の中核リーダーを育成する研究員研修（高崎長期研修・高崎特別研修等）も年間を通して実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、研修内容や受講者の実態に応じた研修形態（対面・集合型、リアルタイム型、オンデマンド型）、受講者同士の交流ができるWeb会議システムの活用、研修時間の工夫をしたことで、参加者数の目標を達成することができた。</p> <p>◆研修への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="367 828 933 1030"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>7,000人</td> <td>4,263人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>7,000人</td> <td>7,320人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>7,000人</td> <td>8,326人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「充実した研修内容である」と答えた受講者の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1176 933 1377"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>オンラインによる研修講座受講の様子</p>		年度	目標	実績	令和2年度	7,000人	4,263人	令和3年度	7,000人	7,320人	令和4年度	7,000人	8,326人	年度	実績	令和2年度	97%	令和3年度	96%	令和4年度	96%
年度	目標	実績																				
令和2年度	7,000人	4,263人																				
令和3年度	7,000人	7,320人																				
令和4年度	7,000人	8,326人																				
年度	実績																					
令和2年度	97%																					
令和3年度	96%																					
令和4年度	96%																					
評価検証	<p>研修の内容に応じて対面・集合型の研修とオンラインによる研修を計画的に設定したことで、参加者のニーズに応じた研修、対話等による学び合いや勤務地における研修を実施することができ、研修への参加者数は8,326人に増加した。</p> <p>なお、受講後のアンケートでは、「充実した研修内容である」に肯定的回答をした受講者の割合は96%であった。</p> <p>また、夏季特別研修講座においては、オンライン実施をしたことで、受講者のニーズに応じた講師選定、研修内容、時間設定をすることができ、受講者数は増加した。</p>																					
今後の方針	<p>学校園組織と学び続ける教員を支援するために、人材育成研修システムに基づいた質の高い研修講座を実施することで、教職員の資質向上を図る。また、PDCAサイクルによる組織的な企画運営を推進し、参加者のニーズに応じた研修内容の充実を図る。</p>																					

事業名	教育支援センター推進事業（取組1-1-8）								
事業の目的	不登校児童生徒を対象に学習指導や体験活動、定期的な保護者への面談、在籍校との連携等を実施し、児童生徒の社会的自立を援助する。								
実施状況	<p>市内8教室において、指導員20人とボランティア相談員5人で、学校・保護者と連携を図りながら、不登校児童生徒の社会的自立を目指し、学習指導や体験活動、カウンセリング等を行った。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて教育支援センター8教室合同行事（ものづくり体験学習、社会科体験学習、プラネタリウム体験学習）を3年ぶりに実施することができた。また、各教室においては、教室の実態や特色に応じた学習活動やふれあい活動、制作活動等を実施した。児童生徒の社会的自立に向けた支援の充実を図っていくために、多様化する不登校児童生徒の状況や願いに応じて、柔軟な支援による居場所づくりに努めている。</p> <p>また、高崎市教育支援センター全指導員相談員会議においては、県青少年育成事業団、市カウンセリング協会、市こども発達支援センター等、関係機関と支援内容を共有することで、今後の運営方針、指導、支援の重点等、互いの支援内容を知ることで、一人ひとりにとっての最善の支援に繋がるように努めている。</p> <p>◆通室日数と登校日数の合計が、通室開始当初と比べて増加している人数の割合</p> <table border="1" data-bbox="363 1093 930 1290"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>65%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>合同行事：社会科体験学習</p>	年度	実績	令和2年度	54%	令和3年度	63%	令和4年度	65%
年度	実績								
令和2年度	54%								
令和3年度	63%								
令和4年度	65%								
評価検証	市内8教室において、学校と連携し居場所や学びの場を提供し、体験活動を充実させたことにより、社会的自立に向けた援助をすることができた。なお、令和4年度は、市内小中学校の不登校児童生徒971人のうち、196人が教育支援センターへ通室し、中学3年生の34人が進路決定をすることができた。								
今後の方針	保護者や学校・関係機関との連携を図り、教室合同行事等集団生活への適応に向けた活動、一人ひとりの思いに寄り添った学習支援、情緒の安定や基本的な生活習慣の改善に向けた支援をより充実することにより、社会的自立を援助する。								

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《高崎経済大学附属高等学校に関する取組》	担当課
		高崎経済大学 附属高等学校
取組	1-2-1 確かな学力の確立 1-2-2 キャリア教育の推進 1-2-3 国際理解教育の推進	

事業名	学力向上推進事業（取組 1-2-1）																								
事業の目的	確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びを実現するための時間を確保することで、中学校における普通教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じた高度な普通教育を行う。また、教員の授業指導力向上セミナー派遣等の取組を行い、授業改善による確かな学力の向上を図る。																								
実施状況	<p>全学級が35人を基本としたクラス編成を行うとともに、選択制を取り入れた教育課程を編成し、発展的・補足的な学習を行った。また、シラバスに学習の方針を明記し、校訓にも謳われている「自学自習」の学習の目安として生徒に提示した。</p> <p>芸術コースの音楽系・美術系の生徒には、教員5人のほかに19人の非常勤講師による専門教育を実施するとともに個別指導の充実を図っている。</p> <p>また、各教科から6名の教員が、予備校の主催する教員授業力向上セミナーに参加した。</p> <p>◆セミナー等への派遣が「役に立った」と答えた教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆興味・関心を引き出し、学力の向上に役立つ授業が行われていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>87.7%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>86.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆主体的・協働的な学習が取り入れられていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>87.8%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>91.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆発表する場面で、表現力が身に付いたと考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>83.8%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>86.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和3年度	100%	令和4年度	100%	年度	実績	令和3年度	87.7%	令和4年度	86.8%	年度	実績	令和3年度	87.8%	令和4年度	91.9%	年度	実績	令和3年度	83.8%	令和4年度	86.3%
年度	実績																								
令和3年度	100%																								
令和4年度	100%																								
年度	実績																								
令和3年度	87.7%																								
令和4年度	86.8%																								
年度	実績																								
令和3年度	87.8%																								
令和4年度	91.9%																								
年度	実績																								
令和3年度	83.8%																								
令和4年度	86.3%																								

<p>評価検証</p>	<p>シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結び付けることができた。また、感染症対策を講じながら、協働学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の向上を図ることができた。</p> <p>芸術コースでは、個別指導の充実により、生徒一人ひとりの感性を高めることができた。また、教員の授業力向上セミナーへの参加を通して、実践的な技術を身に付けることができ、教科指導力が向上した。</p> <p>生徒へのアンケート結果から、今後も実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、学習内容が自分の進路や社会生活に役立つことを認識させたい。更に生徒が主体的に学習する態度を育成するための取組を推進していきたいと考える。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>思考力、判断力、表現力はもちろんのこと、自ら学ぶ意欲や姿勢等を含めた確かな学力を育成するため、引き続き、各事業の推進を図る。</p>

事業名	キャリア教育推進事業（取組1-2-2）																				
事業の目的	<p>地域、産業界、大学等との連携を図り、体験活動を中心とした学習を積極的に取り入れることで、社会事象に対する興味・関心を高め、知識をもとに思考・判断する力、表現する力を身に付けさせるとともに、人間関係形成能力や自己管理能力、課題解決力、キャリアプランニング力等の基礎的・汎用的能力を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。</p>																				
実施状況	<p>「総合的な探究の時間」では、1年次には生徒が社会で活躍する大人をインタビューする「仕事インタビュー」を行い、2年次には興味関心に基づく探究活動を行いながら「キャリア」の視点を取り入れた。3年次には卒業後のキャリアについて具体的に考えるプログラムを実施した。</p> <p>文系オナークラスでは、高崎経済大学との「高大コラボゼミ」や地域の優れた企業の見学など、外部機関との連携を通じて実社会の経験を積むプログラムを実施した。</p> <p>◆キャリア教育に係る体験学習の実施回数</p> <table border="1" data-bbox="367 884 965 1081"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>54回</td> <td>53回</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>67回</td> <td>71回</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>53回</td> <td>82回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆体験学習が「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1176 774 1373"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和2年度	54回	53回	令和3年度	67回	71回	令和4年度	53回	82回	年度	実績	令和2年度	100%	令和3年度	100%	令和4年度	100%
年度	目標	実績																			
令和2年度	54回	53回																			
令和3年度	67回	71回																			
令和4年度	53回	82回																			
年度	実績																				
令和2年度	100%																				
令和3年度	100%																				
令和4年度	100%																				
評価検証	<p>「総合的な探究の時間」のなかで実施した、1年次の「仕事インタビュー」では、職業人の仕事への思いや、やりがい、「働く」とは何かといった貴重な話を聞くことで、生徒が自ら「キャリア」を考える上での大きな指針となった。2年次では、社会の課題を自分はいかに解決できるかについて考え実践する「課題解決型」探究学習プログラムのなかで、「キャリア」の視点を取り入れた。</p> <p>課題としては、学校で行うさまざまな「キャリア教育」に一貫性をもたせ、相互効果的に作用するよう整理することが挙げられる。</p>																				
今後の方針	<p>今後もキャリア教育の一層の充実に努めていく。</p>																				

事業名	国際教育推進事業（取組 1-2-3）																				
事業の目的	<p>学習指導要領に基づいて達成されるべき英語力の指標として実用英語能力検定（英検）を利用しながら、高校卒業時に必要なレベルの英語力が身に付くようにする。</p> <p>また、海外研修等の海外における異文化体験を積むことで、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、同時代人としてのものの考え方や生活習慣、衣食住文化、社会制度や信条等を学び、異国の文化や伝統を尊重できる感覚を育成する。</p>																				
実施状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、例年どおり全校生徒が英検を受検する機会を設けた。</p> <p>◆英検準 2 級以上の取得者数（延べ人数）</p> <table border="1" data-bbox="367 712 933 913"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>880 人</td> <td>792 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>850 人</td> <td>790 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>850 人</td> <td>937 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナの影響により、海外派遣は実施できなかったが、7月に香港の慕光英文書院の生徒とオンライン会議システムを用いた国際交流活動を行った。</p> <p>また、夏季休業中には、外国人講師と英語でSDGsやリーダーシップ等について学ぶエンパワーメントプログラムを学校で実施し、約30名の生徒が参加した。</p> <p>◆海外派遣事業（国際交流活動）に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1344 758 1545"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	880 人	792 人	令和 3 年度	850 人	790 人	令和 4 年度	850 人	937 人	年度	実績	令和 2 年度	100%	令和 3 年度	100%	令和 4 年度	100%
年度	目標	実績																			
令和 2 年度	880 人	792 人																			
令和 3 年度	850 人	790 人																			
令和 4 年度	850 人	937 人																			
年度	実績																				
令和 2 年度	100%																				
令和 3 年度	100%																				
令和 4 年度	100%																				
評価検証	<p>全ての生徒が英検を受検し、より上位の資格取得に取り組むことができた。</p> <p>オンライン会議システムを用いた交流会や校内短期留学プログラムを開催したことで、限られた条件下で自らの考えを端的にまとめて会話する経験を積み、コミュニケーション技術の向上の一助となった。この経験は生徒にとって大きな進歩を見出すきっかけとなった。</p>																				
今後の方針	<p>国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、海外交流に参加しようとする生徒を増やすとともに、海外派遣で得られた成果をほかの生徒に広げようとする生徒を増やし、継続して国際教育の充実を図る。</p> <p>引き続き、大学の推薦入試等で合否判定の材料の1つとなる英検 2 級以上の取得を目指そうとする意欲を育む。</p>																				

点検・評価シート

施策の視点	2 子どもたちの心身の健康と体力の向上	担当課
		健康教育課
取組	2-1 心と体の健康づくり 2-2 体力の向上と丈夫な体づくり 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保 2-4 魅力ある学校給食づくり 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成	

事業名	児童生徒等健康管理対策事業（取組 2-1）									
事業の目的	児童生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健教育を実施し治療を促進する。健康診断をすることにより、自己の健康課題に気づき、自ら考え、行動し、心身ともに健康で明るい生活を送れるようにする。									
実施状況	<p>幼児、児童、生徒及び教職員の健康管理の一環として、学校医等による健康診断及び専門機関による検診（貧血検査・尿検査・心臓検診・総コレステロール検査等）を実施し、その結果を受けて保健上必要な指導助言（治療勧告）や保健指導を行った。令和4年度は、コロナの影響による定期健康診断の日程変更もあったが、年度内には全ての健康診断が終了し、適切な事後措置を行うことができた。</p> <p>◆永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>統計調査せず</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>統計調査せず</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和4年度</td> <td>小学校 95.9%</td> </tr> <tr> <td>中学校 90.4%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和2年度	統計調査せず	令和3年度	統計調査せず	令和4年度	小学校 95.9%	中学校 90.4%
年度	実績									
令和2年度	統計調査せず									
令和3年度	統計調査せず									
令和4年度	小学校 95.9%									
	中学校 90.4%									
評価検証	<p>令和4年度は、定期健康診断の日程変更等あったが、11月末までに全ての健康診断が終了し、学校保健統計資料も作成することができた。小学1年生を対象とした巡回歯科指導についても、10月までに全ての学校で実施することができた。</p> <p>学校歯科医等と連携した歯科指導を継続して実施していることにより、本市の児童生徒のDMF歯数は国の目標値をクリアし、小学校0.19、中学校0.65となっている。また、4年度は、県のよい歯の学校表彰で、小学校8校、中学校8校、特別支援学校1校が表彰され、その中で、中学校が1校最優秀賞、小学校1校が歯科保健賞、特別支援学校が歯科保健奨励賞を受賞した。更に、全日本学校歯科保健優良校表彰において、小学校1校、中学校1校が奨励賞を受賞している。</p>									
今後の方針	<p>学校等から働きかけをすることにより、保護者の協力を得て対象者全員の受検を実現する。また、学校医等と連携し、健康診断の結果を児童生徒等の健康管理や保健教育に活用し、児童生徒等の心身ともに健康な生活の実現を目指す。更に、近年はスマートフォンやタブレット端末等の使用による目や心身の健康についての課題も懸念されるため、今日的な健康課題を意識し保健教育を実施していく。</p>									

事業名	学校保健充実事業（取組 2-1）																								
事業の目的	助産師による「命の大切さ」出前授業や専門家による性教育講演会、薬物乱用防止講演会、「エイズデー in たかさき」への参加を実施し、豊かな人間性をはぐくみ、生涯を通じて健康な生活を営む児童生徒の育成を図る。																								
実施状況	<p>豊かな心と健康な体づくりの一環として、健康教育の今日的課題に対応するため、専門家の講演や体験活動により、正しい知識を身に付け、自己の日常の生活に生かせるよう、学校において保健計画に位置づけられた継続的な実施を目指している。助産師会、ボランティア団体、学校医等の協力により、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>◆助産師による授業・性教育講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="359 613 1107 804"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>55 校</td> <td>43 校</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>55 校</td> <td>49 校</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>55 校</td> <td>61 校</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆薬物乱用防止講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="359 896 1107 1086"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>65 校</td> <td>41 校</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>65 校</td> <td>65 校</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>65 校</td> <td>68 校</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	55 校	43 校	令和 3 年度	55 校	49 校	令和 4 年度	55 校	61 校	年度	目標	実績	令和 2 年度	65 校	41 校	令和 3 年度	65 校	65 校	令和 4 年度	65 校	68 校
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	55 校	43 校																							
令和 3 年度	55 校	49 校																							
令和 4 年度	55 校	61 校																							
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	65 校	41 校																							
令和 3 年度	65 校	65 校																							
令和 4 年度	65 校	68 校																							
評価検証	<p>実施を希望する学校が増加している講師派遣事業については、予算維持とともに、実績の拡大に努めている。</p> <p>助産師でつくる『とらうべの会』による「命の大切さ」出前授業については、毎年継続して実施希望の学校が多いため、とらうべの会の先生方と日程を調整し、毎年多くの学校で実施できている。実施校の報告書には、出前授業を通して、自分自身が大切に育てられ成長できたことを実感し、両親、家族や周囲の人たちの思いに気付くことができた等の記載が多くあり、児童生徒が自他の命の大切さに気付く機会とすることができた。</p>																								
今後の方針	<p>性教育、薬物乱用防止教育は、今日のかつ緊急的な課題であるため、受講学校数を増加できるよう多面的に働きかけていく。特に薬物乱用等の低年齢化に伴い、正しい知識と適切な判断ができるよう、小学校の薬物乱用防止教室の拡充を図り、保健所やライオンズクラブ等の関係機関と連携し、学校への支援を行いたい。</p> <p>また、予算等の関係から、隔年で実施する学校も多いが、より大きな成果を得られるように継続的な実施を働きかけていく。</p>																								

事業名	部活動充実事業（取組 2-2）																																				
事業の目的	中学校に部活動指導員や外部指導者を配置し、部活動の充実及び円滑な運営を図るとともに、部活動指導を行う教員の支援を行う。																																				
実施状況	<p>市内の各中学校 25 校に部活動指導員を配置することや各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣により、部活動の質的向上や教職員の負担軽減を図るとともに、「高崎市部活動の運営について（教育委員会通知）」の徹底を図り、各中学校の実情に合わせた望ましい部活動の推進に努めた。</p> <p>◆部活動指導員配置人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>75 人</td> <td>60 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>75 人</td> <td>58 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>75 人</td> <td>56 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆運動部への外部指導協力者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>65 人</td> <td>41 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>52 人</td> <td>43 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>52 人</td> <td>44 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆教職員の負担軽減につながったと答えた学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	75 人	60 人	令和 3 年度	75 人	58 人	令和 4 年度	75 人	56 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	65 人	41 人	令和 3 年度	52 人	43 人	令和 4 年度	52 人	44 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	100%	96%	令和 3 年度	100%	96%	令和 4 年度	100%	100%
年度	目標	実績																																			
令和 2 年度	75 人	60 人																																			
令和 3 年度	75 人	58 人																																			
令和 4 年度	75 人	56 人																																			
年度	目標	実績																																			
令和 2 年度	65 人	41 人																																			
令和 3 年度	52 人	43 人																																			
令和 4 年度	52 人	44 人																																			
年度	目標	実績																																			
令和 2 年度	100%	96%																																			
令和 3 年度	100%	96%																																			
令和 4 年度	100%	100%																																			
評価検証	部活動指導員の配置や運動部活動における外部指導者派遣により、教職員の部活動に係る心理的な負担や勤務時間の軽減を図ることができた。また、各種目の専門性を生かした指導が行われたことにより、更なる技能の向上やけがの防止に努めることができた。また、休日の部活動の段階的な地域移行への取組として、市スポーツ協会、市スポーツ課との情報交換会や中学校長会で休日移行に係るアンケートを実施し、実態の把握に努めた。市内のスポーツクラブ等の関係団体と連携して、実情に応じた方法を探っている。																																				
今後の方針	部活動を取り巻く現状と改革において、教職員の働き方改革における負担軽減が着実に推進している中で、練習する場所の確保（使用料）、指導者への謝礼、保護者への経済的負担等課題はあるが、部活動に取り組む生徒が取り残されないことがないよう、生徒目線の取組の改革として意識していきたい。																																				

事業名	学校体育充実事業（取組 2-2）																				
事業の目的	生涯を通して運動に親しむ心を養うとともに、各種競技大会の開催や新体力テストの実施、中体連等への支援を行い、児童生徒の体力の向上に努める。																				
実施状況	<p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するために、各種運動の基本的な動きや技能をタブレットの使用により視覚的に捉えることで明確にし、自己の課題を見つけ、その解決に向け主体的に運動に親しむことができる授業づくりを行った。また、自らの体力に関心をもち、進んで体力向上に取り組む児童生徒の育成に努めた。</p> <p>小学生を対象に行った体操演技講習会を通して、跳び箱、マット、鉄棒といった器械運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成に努めた。</p> <p>中体連各大会における運営への協力や、群馬県大会および関東・全国大会における選手の派遣に向けた支援に努めた。</p> <p>◆新体力テストの実施者数（小学 5・6 年生及び中学 1～3 年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>5,673 人【実施率 35%】</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>15,185 人【実施率 87%】</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>14,989 人【実施率 95%】</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好きである」「どちらかというと思う」と回答した児童の割合（小学 5 年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>93%</td> <td>全国調査中止</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>93%</td> <td>92.2%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>93%</td> <td>93.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和 2 年度	5,673 人【実施率 35%】	令和 3 年度	15,185 人【実施率 87%】	令和 4 年度	14,989 人【実施率 95%】	年度	目標	実績	令和 2 年度	93%	全国調査中止	令和 3 年度	93%	92.2%	令和 4 年度	93%	93.3%
年度	実績																				
令和 2 年度	5,673 人【実施率 35%】																				
令和 3 年度	15,185 人【実施率 87%】																				
令和 4 年度	14,989 人【実施率 95%】																				
年度	目標	実績																			
令和 2 年度	93%	全国調査中止																			
令和 3 年度	93%	92.2%																			
令和 4 年度	93%	93.3%																			
評価検証	<p>体育の授業づくりでは、その種目の運動で得られる楽しさや喜びを得られるよう工夫した授業が行われている。児童生徒は、タブレットの使用により自らの動きを視覚的に捉え自己の課題を明確にすることで、課題解決に必要な基本的技能や知識を身に付け、身に付けた力をもとに自己の課題に主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>小学生の体操演技講習会では、体育の授業において取り組む身近な種目に絞って開催したことにより、基本的な技能のポイントを確認することができ、器械運動に親しむ児童の育成を図ることができた。</p> <p>中体連の大会運営や選手の派遣等については、各学校や中体連のニーズに対応した支援を行うことができた。</p>																				
今後の方針	<p>全児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、資料提供やタブレット等、ICTを活用した授業展開を充実させることで、更なる体育の授業改善を図る。また、新体力テストによる、持久力や投力の低下等の学校課題を明確にし、体育授業や体育集会において課題解決を図る活動を取り入れるなど、全校体制による計画的・組織的な取組を推進するよう努める。</p>																				

事業名	交通教室事業（取組 2-3）																												
事業の目的	交通法規や自転車実習による交通教室を開催し、自分の命は自分で守る交通安全教育を推進する。																												
実施状況	<p>小学3年生を対象に和田橋交通公園において「交通安全教室」を実施した。「交通事故ゼロ」を目指し、自転車の乗り方や交通ルールを中心に学習している。</p> <p>また、夏休みを利用して、自転車に乗れない小学1年生を対象に「親子自転車教室」を実施した。</p> <p>◆小学生の交通事故件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>44件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>36件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>30件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通安全教室小学3年生の受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,745人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3,008人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,890人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆児童に対して交通安全への効果があると答えた学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆親子自転車教室受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>26組</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>53組</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>36組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和2年度	44件	令和3年度	36件	令和4年度	30件	年度	実績	令和2年度	1,745人	令和3年度	3,008人	令和4年度	2,890人	年度	実績	令和4年度	98%	年度	実績	令和2年度	26組	令和3年度	53組	令和4年度	36組
年度	実績																												
令和2年度	44件																												
令和3年度	36件																												
令和4年度	30件																												
年度	実績																												
令和2年度	1,745人																												
令和3年度	3,008人																												
令和4年度	2,890人																												
年度	実績																												
令和4年度	98%																												
年度	実績																												
令和2年度	26組																												
令和3年度	53組																												
令和4年度	36組																												
評価検証	<p>小学3年生の交通安全教室では、和田橋交通公園内にて交通ルールの学習や自転車を正しく乗るための知識、技能の習得に向けた実技指導の充実に努めた。</p> <p>また、親子自転車教室では、自転車に乗れるよう指導するだけでなく、交通ルールやマナーなどの交通安全指導も行った。</p> <p>日頃の学校での交通安全指導をことある毎に実施しており、交通事故総数の年々の減少傾向に繋がっていると評価できる。</p>																												
今後の方針	<p>小学生の自転車事故の主な原因は、一時停止不履行や前方不注意である。自分の命は自分自身で守ることや各地域の実情に応じた実効性のある交通安全教育が実施できるよう、各校への情報提供や支援に努めていく。また、自転車保険の義務化やヘルメット着用の努力義務化について周知を引き続き行い、家庭と連携した交通安全教育を推進していく。</p>																												

事業名	給食充実事業（取組 2-4）																								
事業の目的	学校給食において、地場農産物の積極的な活用や郷土料理の導入、栄養教諭・栄養士による食指導を実施することにより、児童生徒の健やかな成長と望ましい食習慣を形成していく。																								
実施状況	<p>新鮮で安全な食材の提供が可能となるだけでなく、地元の農産物生産者への支援、児童生徒の本市の農産物・農業への関心を高めることにも繋がることから、学校給食に地場農産物を積極的に使用している。また、児童生徒が食の重要性を知り、食についての興味・関心が高められるよう、栄養教諭・栄養士が給食時の教室訪問、給食放送、一口メモ等を活用し、献立や食材などに関する説明や食指導を行っている。</p> <p>◆給食における地場農産物使用率</p> <table border="1" data-bbox="371 685 1008 871"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>50%</td> <td>38.8%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>50%</td> <td>39.2%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>50%</td> <td>39.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆食に関する指導により児童生徒の興味・関心が高められたと回答した栄養教諭・栄養士の割合</p> <table border="1" data-bbox="371 1008 1008 1193"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100%</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>100%</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>70%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	50%	38.8%	令和 3 年度	50%	39.2%	令和 4 年度	50%	39.3%	年度	目標	実績	令和 2 年度	100%	62%	令和 3 年度	100%	68%	令和 4 年度	70%	75%
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	50%	38.8%																							
令和 3 年度	50%	39.2%																							
令和 4 年度	50%	39.3%																							
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	100%	62%																							
令和 3 年度	100%	68%																							
令和 4 年度	70%	75%																							
評価検証	<p>給食における地場農産物使用率は、物価高騰の影響を受けたが、地場産の旬の食材を使用した献立の工夫や、代替えの食材に変更するなど柔軟に対応をした。引き続き目標に到達するよう努めていきたい。</p> <p>栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、季節に合わせた食材による献立や伝統的な食文化や行事食、食品の産地や特徴を計画的に指導することで、児童生徒が地元の農産物や生産者に関心を持ち、その献立を話題にするようにもなり、残さず食べようとする気持ちが高まった。</p>																								
今後の方針	<p>地場農産物の使用率は、気候の影響による農作物の生育・流通状況等、外的な要因の影響を受けることもあるが、生産者や関係機関と連携を図り、生育状況、生産量等の情報収集を行い、より多くの地場農産物が使用できるよう取組を進めていく。</p> <p>栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、教室訪問と併せて、給食放送、一口メモ、掲示資料、給食だより等を有効活用できるよう各学校への働きかけを行う。</p>																								

事業名	給食運営事業（取組 2-4）															
事業の目的	安全・安心な給食を提供するため、調理器具等の更新を実施するとともに、食育の視点から給食残渣の削減に取り組む。															
実施状況	<p>調理器具等の状況を確認し、必要性の高いものから優先的に更新を行った。 各学校園における残渣から作られた堆肥量をもとに、年間の残渣を推定して一人一日分の残渣を算出した。</p> <p>◆児童生徒一日あたりの給食残渣（令和4年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>37 g</td> <td>64 g</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>34 g</td> <td>38 g</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>42 g</td> <td>46 g</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>41 g</td> <td>37 g</td> </tr> </tbody> </table>	対象	目標	実績	幼稚園	37 g	64 g	小学校	34 g	38 g	中学校	42 g	46 g	特別支援学校	41 g	37 g
対象	目標	実績														
幼稚園	37 g	64 g														
小学校	34 g	38 g														
中学校	42 g	46 g														
特別支援学校	41 g	37 g														
評価検証	特別支援学校の残渣は、昨年度に引き続き目標値を達成できた。一方で幼稚園では目標値よりかなり多く、小学校及び中学校でも目標値よりも少し多かった。実績については、献立の内容により残渣の量も変わってくる。															
今後の方針	安全・安心な給食を提供するために、引き続き、古い調理器具等の更新を行っていくことで、給食業務に関わる職員の安全を図る。また、食育の面からも、給食残渣を更に削減できるよう、食材、調理方法などの工夫により献立の充実に努めていく。															

事業名	小学生自然体験活動事業（取組 2-5）												
事業の目的	<p>榛名湖畔の素晴らしい自然環境を活用し、登山や野外炊飯などの自然体験活動を実施し、小学生の生きる力、豊かな心を育成する。</p>												
実施状況	<p>榛名湖畔にある「榛名林間学校榛名湖荘」での自然体験学習を市内全小学校 58校が実施した。コロナ禍での実施となったことから宿泊での実施を見合わせ、日帰りでの実施とした。実施にあたっては活動内容や活動場所に留意し、万全な感染症予防対策をとった。</p> <p>榛名湖畔を一周する「榛名湖ウオーク」では、季節ごとに移り変わる景色を見たり湖水に触れたりして榛名の自然を感じる活動ができた。また、所員が榛名湖畔の植物や生き物、地形、山々などの紹介をすることで子どもたちの興味関心を高めることができた。関東ふれあいの道を歩く「登山」も学校の実情に合わせて選べるようにしたことで、より主体的な活動を促すことができた。</p> <p>施設内では、榛名湖畔の木々を加工してオリジナルスプーンを制作し、林間学校の思い出のものとした。また、感染症予防対策として消毒の徹底、活動場所の分散、制作方法の工夫など万全の体制で活動を行った。</p> <p>◆林間学校参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="370 936 911 1133"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>校数</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>55 校</td> <td>2,988 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>58 校</td> <td>3,128 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>58 校</td> <td>2,979 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">火おこし体験</p>	年度	校数	児童数	令和 2 年度	55 校	2,988 人	令和 3 年度	58 校	3,128 人	令和 4 年度	58 校	2,979 人
年度	校数	児童数											
令和 2 年度	55 校	2,988 人											
令和 3 年度	58 校	3,128 人											
令和 4 年度	58 校	2,979 人											
評価検証	<p>本事業では、市内 58 小学校の 5 年生が、榛名湖畔の豊かな自然に触れ、仲間と協働することで、子どもたちに生きる力と豊かな心を育むことができた。雨天時においては、榛名湖ウオークの距離を短くするなどの対応や木製名札制作により悪天候でも有意義な活動ができるように計画した。感染症対策として、大規模校は 2 日間に分散して入校するなどの対策を立てた。</p>												
今後の方針	<p>榛名湖周辺の自然を生かした体験プログラムの充実を図り、子どもの実態に合わせた活動を行い、心身ともに健康でたくましい児童の育成ができる事業としていく。コロナ禍での日帰りでの実施も 3 年目となり、学校の実情や個に応じた対応によりプログラムも充実してきたが、宿泊することで得られる集団活動における自主性や協働、規律などを育む活動の意義を踏まえ、感染症対策を十分講じた上で宿泊体験活動実施を検討していく。</p>												

事業名	「健康教育」啓発事業（取組 2-1・2-2・2-3・2-4）
事業の目的	<p>「21世紀を担う元気なたかさきっ子」を育てるため、本市における健康教育（学校保健・学校体育・学校給食）の取組を紹介する健康教育フェアを開催し、学校園における実践の様子について、パネル展示等を通して広報することにより、学校・家庭・地域の連携の必要性を市民とともに考えていく。</p>
実施状況	<p>「健康教育フェア」は、健康教育に関する学校の実践や、学校給食、学校医・学校歯科医・学校薬剤師による活動のパネル展示等を市庁舎1階ロビー及び保健センター1階ロビーで行った。</p> <p>同時に開催している「エイズデー in たかさき」については、市内の学校が作成したエイズパネルの展示を行った。旧市内の学校は健康教育フェアで、支所地域は各支所での展示を行った。</p> <p>なお、エイズパネル街角美術展、街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">「エイズデー in たかさき」 パネル展示の様子</p>
評価検証	<p>「健康教育フェア」と、同時開催している「エイズデー in たかさき」のエイズパネル街角美術展、街頭キャンペーンは中止となったが、エイズデーの取組は広報紙「AIDS」の作成のほか、各校でレッドリボンやエイズパネルを作成し啓発活動を行う等、工夫して実施することができた。</p>
今後の方針	<p>健康教育は、継続的な取組が大切であることから、幼稚園から高等学校まで幅広く働きかけていく。今後も市庁舎1階ロビーなど、多くの市民が訪れやすい会場で開催し、パネル等の展示物の充実を図るとともに、多くの市民に会場でもらえるよう、広報による周知方法や催し物の開催方法を工夫していく。</p>

点検・評価シート

施策の視点	3 安全で多機能な教育環境づくりの推進	担当課
		教育総務課 健康教育課 高崎経済大学 附属高等学校
取組	3-1 安全・安心な学校づくり 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり 3-3 地域性を発揮させた学校づくり 3-4 環境にやさしい学校づくり	

事業名	学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園） （取組 3-1・3-2・3-3・3-4）
事業の目的	各学校園における改修等の要望箇所及び施設の点検結果を踏まえ、適切な改修工事等を実施することで、安全で快適な教育環境の維持管理を図る。
実施状況	「工事要望調査」等により、施設の危険や不具合の状況を把握し、各所の補修・改修工事やトイレ洋式化等の工事を実施した。トイレ洋式化工事の進捗状況は、令和4年度末時点で約90%となっている。
評価検証	施設の老朽化により各学校園からの要望も多くなってきているが、危険性及び緊急性の高いものから優先して改修を行った。また、外壁改修工事や給水管更新工事等を行い、学校施設の安全性の確保に努めるとともに、トイレ洋式化や体育館空調設置等の工事により学習環境の向上に努めた。
今後の方針	各学校園からの要望や施設の点検結果を踏まえ、優先度の高いものから改修を行っていく。

事業名	学校施設整備事業（高等学校）（取組 3-1）
事業の目的	安全で快適な学習環境と、生徒が安心して学校教育活動に取り組める環境を創出するため、学校施設の計画的な整備や適切な維持管理に努め、高等学校教育の充実を目指す。
実施状況	施設の老朽化により補修箇所が年々増加しているため、危険な状態、又は学校運営上、重大な支障が生じる箇所から優先的に補修を行った。
評価検証	予算の範囲内で、危険度及び必要性の高いものから優先して改修した。
今後の方針	学校施設のより一層の適切な維持管理に努めるとともに、必要な修繕工事等を優先度の高いものから実施していく。

事業名	学校体育施設開放事業（取組 3-2）												
事業の目的	生涯スポーツの普及と推進を図るため、各種団体のスポーツやレクリエーション活動に対し、小中学校施設等の体育施設の積極的な開放を行う。												
実施状況	<p>学校体育施設開放については、学校の教育活動に支障のない範囲で各学校の校庭や体育館等の体育施設を活用して実施している。令和 4 年度は、前年度に引き続き、利用者へ利用前の検温や共有部分の消毒などを依頼し、感染症対策の徹底に努めた。</p> <p>◆学校体育施設利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>670,000 人</td> <td>456,771 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>650,000 人</td> <td>473,264 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>500,000 人</td> <td>499,084 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	670,000 人	456,771 人	令和 3 年度	650,000 人	473,264 人	令和 4 年度	500,000 人	499,084 人
年度	目標	実績											
令和 2 年度	670,000 人	456,771 人											
令和 3 年度	650,000 人	473,264 人											
令和 4 年度	500,000 人	499,084 人											
評価検証	<p>前年度に引き続きコロナ禍の施設開放ではあったが、感染症対策を徹底しながら、多くの市民が学校体育施設を利用して、生涯スポーツの推進を図ることができた。また、コロナ禍で多くのスポーツイベントや大会が中止となっていたものが、少しずつ再開されたこともあり、本事業が市民にとっての身近なスポーツ活動に親しむ場として有効活用を図ることができた。健康及び体力の保持増進や地域におけるスポーツを通じた交流の場として、登録団体数は毎年増加している。</p>												
今後の方針	<p>学校体育施設が、地域の生涯スポーツ活動の場となるよう、更なる普及・推進に向け、引き続き制度の周知活動に力を入れていく。また、利用者が安全にスポーツに親しむことができるよう、換気などの基本的な感染症対策を行うとともに、屋外照明の修繕や使用する器具の安全管理について整備を進めていく。</p>												

点検・評価シート

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		社会教育課 中央公民館
取組	4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進 4-1-3 人権文化の創造 4-1-4 家庭教育の振興 4-1-5 学習支援体制の整備 4-1-6 平和な社会生活の創造 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備	

事業名	地区推進体制整備事業（取組 4-1-1）													
事業の目的	学習者と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている生涯学習推進員の活動を支援し、地域住民の生涯学習推進の充実を図る。													
実施状況	<p>◆生涯学習推進研究大会</p> <p>令和4年度は、第3ブロック箕輪・車郷・箕郷東小学校区による「歴史探訪から郷土を学ぶ」、第7ブロック堤ヶ岡・桜山小学校区による「生涯学習推進員と地域づくり」、公民館課題研究会による「公民館主事のチャレンジ」のそれぞれの事例研究発表を行った。</p> <p>◆生涯学習推進員が関わった地域活動への参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>16,541人</td> <td>4,476人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>16,069人</td> <td>6,799人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>5,000人</td> <td>14,647人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和2年度	16,541人	4,476人	令和3年度	16,069人	6,799人	令和4年度	5,000人	14,647人	 <p>生涯学習推進研究大会</p>
年度	目標	実績												
令和2年度	16,541人	4,476人												
令和3年度	16,069人	6,799人												
令和4年度	5,000人	14,647人												
評価検証	生涯学習推進研究大会は、生涯学習フェスティバルと同時開催することにより、多くの市民に生涯学習活動を始めのきっかけを提供している。推進員が関わった地域活動は事業数が増加し、また参加者数も前年度の倍を超え目標値を大きく上回った。今後も推進員の活動が更に地域住民に理解されることが大切である。													
今後の方針	地域活動に生涯学習推進員が積極的にに関わり、学校や公民館等の社会教育施設との連携を深め、参加者を増やせるよう生涯学習の活性化に努める。生涯学習推進員の役割や地域の特性を生かしながら、意欲的に活動に取り組んでいる状況を明確にし、更なる支援を図る。													

事業名	公民館運営事業（取組 4-1-2・4-1-7）																									
事業の目的	地域の特色と住民の学習要求に対応した事業の展開を通して、「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」を行う。																									
実施状況	<p>公民館主催事業については、次の4つを柱に展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライフアップ推進事業－高齢者、健康、家庭教育、環境教育、防災・防犯、人権等の社会的な課題に関する学習機会を提供する事業 2 キャリアデザイン支援事業－生きがいのある人生設計を考え、個々の能力や個性の開発に挑戦できる学習機会を提供する事業 3 地域づくり支援・ボランティア養成事業－地域の伝統や文化をより発展させるための支援や活動ボランティアを養成する事業 4 図書ボランティア活動支援事業－心豊かな子どもたちの成長を願い、公民館図書活動を充実させるための事業 <p>◆公民館利用者数</p> <table border="1" data-bbox="384 831 976 1028"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>860,000人</td> <td>401,648人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>600,000人</td> <td>434,435人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>600,000人</td> <td>526,596人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆公民館主催事業への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="384 1086 976 1283"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>120,000人</td> <td>31,272人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>60,000人</td> <td>35,345人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>60,000人</td> <td>48,016人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>「片岡ほっと！Hot！Cafe」の様子 （片岡公民館主催事業）</p>		年度	目標	実績	令和2年度	860,000人	401,648人	令和3年度	600,000人	434,435人	令和4年度	600,000人	526,596人	年度	目標	実績	令和2年度	120,000人	31,272人	令和3年度	60,000人	35,345人	令和4年度	60,000人	48,016人
年度	目標	実績																								
令和2年度	860,000人	401,648人																								
令和3年度	600,000人	434,435人																								
令和4年度	600,000人	526,596人																								
年度	目標	実績																								
令和2年度	120,000人	31,272人																								
令和3年度	60,000人	35,345人																								
令和4年度	60,000人	48,016人																								
評価検証	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、住民が集い活動する地域の拠点としての役割を果たした。公民館利用者数、公民館主催事業への参加者数は、利用人数の制限や地域の諸団体との共催事業の中止等のため、コロナ禍前と比較すると大きく減少はしているものの、回復傾向にあるのは、住民の学習機会の要求の表れと認められる。</p> <p>各公民館では「公民館だより」の町内回覧やホームページ「まなびネットたかさき」などにより、市民に公民館事業への参加を呼びかけ、必要とする人に情報が届くように努めるとともに、地域人材、団体育成・地域づくりの支援を行っている。</p> <p>地域の特色を活かした新たな事業として、住民が気軽に集い交流できるカフェを定期的に開催する片岡公民館「片岡ほっと！Hot！Cafe」、路面電車や長野堰など地域の歴史を知るための展示を行う北公民館「昔の高崎を見てみよう」、鐺川で地域の団体と協力して行う吉井公民館「カヌー体験教室」を始めとした事業を展開した。また、より充実した学習機会を提供できるよう、ポケットWi-Fiを活用した事業に引き続き取り組み、公民館と谷川岳をオンラインで繋ぎ、自然環境について学ぶ久留馬公民館「白銀の世界によろこそ」などを実施した。</p>																									

今後の方針	<p>地域住民の生活を支える社会教育活動の拠点として生涯学習の推進に努めるとともに、公民館職員の資質の向上を図りながら、心豊かな活力ある人づくり・地域づくりに資する事業を推進していく。</p> <p>デジタル田園都市国家構想の実現に向け、地域住民のデジタルリテラシーの向上への取り組みが求められていることから、地区公民館でスマートフォンの利用方法に関する講座に取り組む。</p>
-------	---

事業名	生涯学習推進事業（取組 4-1-1・4-1-5）																								
事業の目的	市民一人ひとりの主体的な学習活動が地域づくりに生かされ、地域力を育む生涯学習社会が創造されるよう本事業の推進を図るとともに市民の学習活動を支援する。																								
実施状況	<p>◆生涯学習推進事業参加者・受講者数（令和4年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習推進研究事業</td> <td>270人</td> <td>268人</td> </tr> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>420人</td> <td>400人</td> </tr> <tr> <td>出前講座</td> <td>2,000人</td> <td>2,483人</td> </tr> <tr> <td>まなびネットたかさきの閲覧回数</td> <td>220,000回</td> <td>275,293回</td> </tr> <tr> <td>地域人材登録活用事業</td> <td>2,800人</td> <td>3,426人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定事業</td> <td>100人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定新規受検者の割合</td> <td>30%</td> <td>27.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆たかさき子ども活動デーの推進</p> <p>学習活動の一環として土曜日を有意義に過ごせるよう、市内をはじめ県内各施設の子ども向け事業の情報を掲載した「たかさき子ども活動デー・インフォメーション」を130,000部発行した。</p>	事業名	目標	実績	生涯学習推進研究事業	270人	268人	生涯学習フェスティバル	420人	400人	出前講座	2,000人	2,483人	まなびネットたかさきの閲覧回数	220,000回	275,293回	地域人材登録活用事業	2,800人	3,426人	高崎学検定事業	100人	84人	高崎学検定新規受検者の割合	30%	27.4%
事業名	目標	実績																							
生涯学習推進研究事業	270人	268人																							
生涯学習フェスティバル	420人	400人																							
出前講座	2,000人	2,483人																							
まなびネットたかさきの閲覧回数	220,000回	275,293回																							
地域人材登録活用事業	2,800人	3,426人																							
高崎学検定事業	100人	84人																							
高崎学検定新規受検者の割合	30%	27.4%																							
評価検証	<p>「生涯学習フェスティバル」は、入場者を会場の収容定員の50%以下に制限するなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努めた。目標値には届かなかったが参加者数は回復傾向にある。</p> <p>「生涯学習推進研究事業」の参加者数は、目標値には僅かに届かなかったものの、コロナ禍で中止した事業の再開により前年度実績を上回っている。「出前講座」は講座内容を充実させることで、参加者数も前年度より増加した。「まなびネットたかさき」は市民の活動意欲の高まりなどから、年度当初より閲覧回数の増加傾向が見られていたが、1月にサイトリニューアルを行ったことで更に利便性が向上し、年間の閲覧回数は前年度を大きく上回る結果となった。</p> <p>「地域人材登録活用事業」は、コロナ禍による利用自粛を経験した市民が再び事業を再開し、学習意欲が高まってきたことから目標値を大幅に上回ることができた。</p> <p>「高崎学検定事業」は、コロナ禍でも安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、受検者数（前年比+2人）、新規受検者割合（前年比+5.4%）ともに増加に転じた。</p>																								
今後の方針	インターネットを利用した生涯学習情報システム「まなびネットたかさき」の内容を更に充実・活用する。関係機関との調整を図るとともに連携を深め、積極的な学習支援や周知・啓発を行い市民サービスの向上に努める。各種事業においては、市民の学習意欲の高まりに応じていけるよう、様々な方策を考え事業内容を充実させていきたい。																								

事業名	人権文化創造事業（取組 4-1-3・4-1-6）																																																
事業の目的	<p>人権尊重都市宣言の具現化を目指し、基本的人権尊重の精神が本市の隅々まで浸透し、「思いやりの心がゆきわたるまちたかさき」の創造を図るため、人の立場を尊重しつつ、人を思いやる心を持つことの大切さを啓発し、支え合って生活していけるよう、さまざまな人権課題に関する講座、懇談会等を開催する。</p>																																																
実施状況	<p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 432 908 629"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>2,200 人</td> <td>335 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>800 人</td> <td>709 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>900 人</td> <td>925 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会 「参考になった」と答えた参加者の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 725 908 922"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>95%</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権教育講座参加者数（公民館主催）</p> <table border="1" data-bbox="368 972 908 1169"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,600 人</td> <td>600 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>800 人</td> <td>688 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>900 人</td> <td>849 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権講演会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 1218 908 1415"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>380 人</td> <td>148 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>150 人</td> <td>182 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>180 人</td> <td>147 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>思いやりを持った社会を作るための市民研修会</p>	年度	目標	実績	令和 2 年度	2,200 人	335 人	令和 3 年度	800 人	709 人	令和 4 年度	900 人	925 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	95%	95%	令和 3 年度	95%	96%	令和 4 年度	95%	95%	年度	目標	実績	令和 2 年度	1,600 人	600 人	令和 3 年度	800 人	688 人	令和 4 年度	900 人	849 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	380 人	148 人	令和 3 年度	150 人	182 人	令和 4 年度	180 人	147 人
年度	目標	実績																																															
令和 2 年度	2,200 人	335 人																																															
令和 3 年度	800 人	709 人																																															
令和 4 年度	900 人	925 人																																															
年度	目標	実績																																															
令和 2 年度	95%	95%																																															
令和 3 年度	95%	96%																																															
令和 4 年度	95%	95%																																															
年度	目標	実績																																															
令和 2 年度	1,600 人	600 人																																															
令和 3 年度	800 人	688 人																																															
令和 4 年度	900 人	849 人																																															
年度	目標	実績																																															
令和 2 年度	380 人	148 人																																															
令和 3 年度	150 人	182 人																																															
令和 4 年度	180 人	147 人																																															
評価検証	<p>「心豊かな地域づくりのための懇談会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため館の実態に応じて参加人数を制限するなどして開催した。事前に助言者を対象とした研修会を行い共通理解を図ったこと、また参加者がよりテーマに迫れるようにサブテーマに沿った内容で構成されているDVDを選定したこと、さらにDVDを視聴する際の「視点」を示すことで、焦点を絞って話し合い活動ができたことで、「参考になった」と答えた参加者の割合は95%となり目標値を達成することができた。子育て世代への参加呼びかけは行いづらい状況であったが、アンケートからは世代間を超えて地域交流を求めるものが継続して見られた。各公民館で開催している「人権教育講座」は人数を制限しながらも全館で実施することができた。女性や子ども、高齢者を対象とした講座が実施され、幅広い世代の学習の場とすることができた。「人権講演会」は、参加人数を制限するなど感染症対策を行い、参加者数は目標値に到達できなかったが、予定した講座を全て開催できた。</p>																																																

今後の方針	<p>基本的な感染対策を継続しながら、市内の各地区公民館との連携・協働を図り、人権課題に関する講座、懇談会等により幅広い世代の参加者が得られるよう周知を行う。講座の実施に際しては、今年度のように参加者がより身近に感じられるテーマの選定や、短時間でもテーマに迫れるような方法、懇談会の形態や時間の使い方など、さまざまな状況に対応できるような内容を考えていく。講座の企画にあたり、前年度のアンケート結果を考察し、市民の実態把握や地域の課題や実情を理解し、参加意義や充実感を感じられるよう心がけるとともに子育て世代への呼びかけを強めるなど、世代間交流を図る。</p>
-------	--

事業名	家庭教育支援事業（取組 4-1-4）																								
事業の目的	<p>家庭の教育力の向上を目指すとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応するために家庭教育に関する各種講座を開催する。また、子育て支援に携わる市民との協働を図り、子育て支援にかかわる情報の共有や発信、活動支援を行う。</p>																								
実施状況	<p>◆家庭教育関連講座参加者数</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>4,400 人</td> <td>3,462 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>3,500 人</td> <td>3,407 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>3,600 人</td> <td>3,445 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆参加者のうち「講座の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>98%</td> <td>97%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">  <p>幼児期子育て講座の様子</p> </div>	年度	目標	実績	令和 2 年度	4,400 人	3,462 人	令和 3 年度	3,500 人	3,407 人	令和 4 年度	3,600 人	3,445 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	99%	98%	令和 3 年度	99%	98%	令和 4 年度	98%	97%
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	4,400 人	3,462 人																							
令和 3 年度	3,500 人	3,407 人																							
令和 4 年度	3,600 人	3,445 人																							
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	99%	98%																							
令和 3 年度	99%	98%																							
令和 4 年度	98%	97%																							
評価検証	<p>今年度も前年度のアンケート結果を基に、市民のニーズに合わせた参加体験型の講座を多く企画した。新型コロナウイルス感染症の影響による参加人数の制限や開催日が市主催のイベントと重なったこともあり、参加者数は目標値に届かなかった。しかし、子育て相談の時間を設けたり、個別の質問に丁寧に対応することで、講座に対する「満足」の割合は継続して高い評価を得ることができた。</p>																								
今後の方針	<p>市民が子育てに抱く悩みや不安の解消に向け、引き続き市民のニーズに合った講座と参加者が満足感を得られる参加体験型の講座を計画するとともに、平日だけではなく休日開催の講座も設定することで子育てに関わる全ての人が参加しやすいように配慮したい。また、コロナの制限が緩和されることから、参加人数をコロナ禍前に戻し、参加者同士や参加者と講師とのふれ合う機会がつかれるよう、講座を設定していく。あわせて本市の家庭教育力を高めるために、家庭教育支援に関する情報を「まなびネットたかさき」や「子育て情報紙（すくいく）」などで継続して市民に提供したい。更に、周知を図るため広報高崎に「すくいく」の配布場所や市のホームページから確認できることを掲載する。</p>																								

事業名	視聴覚教育事業（取組 4-1-5）																		
事業の目的	市民が活用しやすい視聴覚教材・教具を取り揃え、市民の学習要求に応じた研修会、講座等を開催する。また、視聴覚に関する情報の共有や発信を行い、学校教育と社会教育が連携・融合しながら、更なる視聴覚教育の推進と市民の学習意欲向上を図る。																		
実施状況	<p>◆視聴覚教育関連講座参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>40 人</td> <td>58 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>40 人</td> <td>52 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆参加者のうち「研修会等の内容に満足した」と答えた割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>90%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>90%</td> <td>89%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 3 年度	40 人	58 人	令和 4 年度	40 人	52 人	年度	目標	実績	令和 3 年度	90%	95%	令和 4 年度	90%	89%
年度	目標	実績																	
令和 3 年度	40 人	58 人																	
令和 4 年度	40 人	52 人																	
年度	目標	実績																	
令和 3 年度	90%	95%																	
令和 4 年度	90%	89%																	
評価検証	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな感染症対策をとりながら、ほとんどの事業が実施できた。不特定多数を招く事業については中止になったが、参加者数の目標値を超えることができた。開催事業では「初めての参加でしたが十分理解できました。」「教えていただいたことを家でも生かしたいと思います。」などの感想が寄せられ、目標に近い満足度が得られた。また、視聴覚ライブラリーにおいては、貸出しがスムーズに行えるよう、16ミリフィルム等の点検や廃棄・整理を行った。																		
今後の方針	今後も感染症対策を講じたうえで、できる限り各事業を継続して開催していく。県の視聴覚教育に係る事業が1つ廃止になったが、それに代わる事業を、市として学びのニーズに応えられるよう計画し、満足度向上に努めたい。そのために、積極的に広報活動を行うとともに、「まなびネットたかさき」での掲載を充実させる。また、映写機等の機材の定期点検や教材の新規購入など、利用者が活用しやすいライブラリーの環境づくりも継続して行っていく。																		

事業名	公民館整備事業（取組 4-1-8）
事業の目的	本市の公民館は中央公民館のほか、44の地区公民館を設置し、地域力を高めるさまざまな生涯学習活動を推進している。快適な学習環境を提供するため、安全で利用しやすい公民館施設の整備を図る。
実施状況	市民の利用を促進するため、公民館施設の適切な維持補修を行った。 令和4年度は、屋上防水修繕など49件の修繕、また、老朽化対策による各種工事を25件実施した。
評価検証	老朽化対策としてトイレ洋式化や空調機械の更新等のほか、修繕（補修）工事を行ったことにより、快適で利用しやすい施設とすることができた。
今後の方針	公民館の整備は、施設の老朽化と耐震診断による結果を踏まえ、改修改築等の方針を定めていきたい。新たな公民館建設については、地域の特性、人口等の状況や既存公民館の維持補修の状況などから整備を検討していきたい。

事業名	社会教育施設改修事業（取組 4-1-8）
事業の目的	市民が快適な学習環境で学べるよう、社会教育施設の修繕・補修工事や維持管理を行う。老朽化等各館の状況を踏まえ、安全で利用しやすい社会教育施設の整備を図る。
実施状況	令和4年度は、交流館でトイレ漏水修理、照明器具交換など8件の修繕とエアコン入れ替え、手すり設置など4件の補修工事を行った。
評価検証	交流館17館の修繕・工事は、予算の範囲内で危険度及び必要性が高いものから優先的に取り組み、施設の機能が発揮できるよう、適切な維持管理に努めた。
今後の方針	陶芸体験施設牛伏窯や交流館の維持管理については、今後も予算の範囲内で計画的に補修などを実施し、適切な管理を行っていく。

事業名	市民活動センター管理運営事業（取組 4-1-8）																								
事業の目的	市民活動センターは、市民の生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進を目的として設置された施設であり、これらの目的を達成するため、諸事業を実施するとともに市民活動の支援に努める。																								
実施状況	<p>◆市民活動センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>59,000 人</td> <td>22,185 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>20,000 人</td> <td>28,554 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>28,000 人</td> <td>41,001 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆市民活動センター団体登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>300 団体</td> <td>282 団体</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>300 団体</td> <td>268 団体</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>300 団体</td> <td>268 団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	59,000 人	22,185 人	令和 3 年度	20,000 人	28,554 人	令和 4 年度	28,000 人	41,001 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	300 団体	282 団体	令和 3 年度	300 団体	268 団体	令和 4 年度	300 団体	268 団体
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	59,000 人	22,185 人																							
令和 3 年度	20,000 人	28,554 人																							
令和 4 年度	28,000 人	41,001 人																							
年度	目標	実績																							
令和 2 年度	300 団体	282 団体																							
令和 3 年度	300 団体	268 団体																							
令和 4 年度	300 団体	268 団体																							
評価検証	管理運営においては、コロナ禍であっても安心して施設が利用できるように心がけたことや、市民の学習意欲の高まりなどにより、利用者数が増加に転じた。また、団体登録数はさまざまな事業を通して市民活動センターが周知されていることにより、一定数を保っている。																								
今後の方針	市民活動センターは、生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進のための拠点施設として、事業を更に強化していく必要がある。 引き続き、利用者数、団体登録数の確保及び円滑な事業運営のための工夫を進めたい。																								

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		中央図書館
取組	4-2-1 図書館資料の充実 4-2-2 図書館ネットワークの活用 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり 4-2-4 子どもの読書活動の推進 4-2-5 関係諸機関との連携	

事業名	図書館管理運営事業（取組 4-2-1・4-2-2）																											
事業の目的	最新の社会動向をはじめ、市民の幅広い学習ニーズに対応できるよう、所蔵資料やサービスの一層の充実を図り、より利用しやすい図書館を目指す。 また、市立図書館6館及び地域の拠点となる公民館等との連携を強化し、更なる利便性の向上を図る。																											
実施状況	<p>◆個人貸出点数</p> <table border="1"> <tr> <th>令和4年度実績</th> </tr> <tr> <td>1,940,886点</td> </tr> </table> <p>◆図書館資料個人貸出点数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出点数 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>2,275,157</td> </tr> <tr> <td>平成元年度</td> <td>2,236,507</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,857,916</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,089,737</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,940,886</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆図書館資料貸出人数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出人数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>562,188</td> </tr> <tr> <td>平成元年度</td> <td>550,426</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>450,133</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>507,568</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>490,273</td> </tr> </tbody> </table>		令和4年度実績	1,940,886点	年度	合計	平成30年度	2,275,157	平成元年度	2,236,507	令和2年度	1,857,916	令和3年度	2,089,737	令和4年度	1,940,886	年度	合計	平成30年度	562,188	平成元年度	550,426	令和2年度	450,133	令和3年度	507,568	令和4年度	490,273
令和4年度実績																												
1,940,886点																												
年度	合計																											
平成30年度	2,275,157																											
平成元年度	2,236,507																											
令和2年度	1,857,916																											
令和3年度	2,089,737																											
令和4年度	1,940,886																											
年度	合計																											
平成30年度	562,188																											
平成元年度	550,426																											
令和2年度	450,133																											
令和3年度	507,568																											
令和4年度	490,273																											

◆資料別蔵書点数

区 分		令和3年度 蔵書数(点)	令和4年度 蔵書数(点)
高崎市立中央図書館	一 般	508,681	508,200
	児 童	87,439	99,003
	視聴覚	75,662	77,736
公民館等	一 般	31,711	31,356
	児 童	30,545	30,585
	視聴覚	0	0
高崎駅サービスセンター	一 般	17,510	16,975
	児 童	1,337	1,513
箕郷図書館	一 般	30,749	30,935
	児 童	14,391	15,337
	視聴覚	3,825	3,816
群馬図書館	一 般	109,449	107,642
	児 童	37,064	40,051
	視聴覚	8,031	8,208
新町図書館	一 般	70,011	69,903
	児 童	26,105	27,451
	視聴覚	6,807	6,355
榛名図書館	一 般	45,213	46,168
	児 童	22,635	23,578
	視聴覚	3,207	3,497
山種記念吉井図書館	一 般	33,107	33,136
	児 童	25,137	26,484
	視聴覚	3,274	3,468
合 計		1,191,890	1,211,397

実施状況

評価検証

英語学習本の需要が高まる中、生涯学習の一環として、辞書に頼らず優しい英語の本をたくさん読むことができる多読英語本の充実を図っている。視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用して、活字を読むことが困難な利用者に資料を提供している。また、市立図書館6館及び地域の拠点となる公民館等との間の物流システムが円滑に運用されるなど、利便性の向上を図っている。

なお、個人貸出点数及び貸出人数の前年度からの減少については、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部サービスの制限などの措置を講じたほか、図書館システム変更に伴う機器の入れ替え作業による臨時休館の影響が大きいと考える。

今後の方針

多くの市民が読書への興味関心を高められるよう、企画展示や特集コーナーの設置、インターネットを活用した情報発信などを推進する。図書館がより有効に活用されるよう、図書館資料収集管理方針に基づき、適正な蔵書管理に努め、図書資料や視聴覚資料の充実を図る。また、引き続き各施設の間を物流システムで結び、利用者の利便性を図り、サービスの拡大に努める。

事業名	市民生活に役立つ図書館づくり事業（取組 4-2-3）																
事業の目的	レファレンスサービスの更なる向上と提供体制の充実を図ることにより、市民が求める資料や情報を的確に案内・提供するとともに、学習や調査研究の円滑な推進を支援する。																
実施状況	<p>レファレンス事例を図書館ホームページ及び国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているレファレンス協同データベースに登録公開した。</p> <p>◆レファレンス協同データベース新規登録件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>52 件</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>31 件</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>19 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆レファレンス協同データベース年間アクセス件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>260,035 回</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>294,752 回</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>217,564 回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和 2 年度	52 件	令和 3 年度	31 件	令和 4 年度	19 件	年度	実績	令和 2 年度	260,035 回	令和 3 年度	294,752 回	令和 4 年度	217,564 回
年度	実績																
令和 2 年度	52 件																
令和 3 年度	31 件																
令和 4 年度	19 件																
年度	実績																
令和 2 年度	260,035 回																
令和 3 年度	294,752 回																
令和 4 年度	217,564 回																
評価検証	レファレンス事例のデータベース化は、市民が求めるさまざまな資料を的確かつ短時間に提供することを可能としている。また、図書館ホームページで事例を公開することにより、市民の学習や調査研究に有用な情報源を提供するのみならず、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、本市の貴重な資料をデジタル画像として広く公開もしている。																
今後の方針	レファレンスサービスと情報発信を積極的に推進し、市民生活や地域の課題解決に有用な情報提供施設としての機能の強化に努める。																

事業名	子どもの読書活動推進事業（取組4-2-4）												
事業の目的	学校連携パックの提供や学校図書館指導員へのレファレンス対応など、各学校図書館との連携と協力を推進することにより、子どもたちが幅広い分野の本に多く触れることのできる機会を提供し、学習活動や読書活動の一層の充実を図る。												
実施状況	<p>◆学校連携相談対応貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>355件（49校）、7,272冊</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>275件（38校）、2,258冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆県立図書館学習支援セット貸出実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>小学校15回、中学校0回</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>小学校8回、中学校0回</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のほか、「がっこう⇄たかさき としょかん通信」を6回発行した。 また、学校図書館指導員の研修に図書館職員を講師として派遣した。</p>	年度	実績	令和3年度	355件（49校）、7,272冊	令和4年度	275件（38校）、2,258冊	年度	実績	令和3年度	小学校15回、中学校0回	令和4年度	小学校8回、中学校0回
年度	実績												
令和3年度	355件（49校）、7,272冊												
令和4年度	275件（38校）、2,258冊												
年度	実績												
令和3年度	小学校15回、中学校0回												
令和4年度	小学校8回、中学校0回												
評価検証	<p>学校連携事業については、学校からの要望を踏まえ新たな学校連携パックを作成するなど内容の充実に努めた。</p> <p>令和4年度より、学校連携パックの貸出時にパック内の資料数ではなく、1パックを1点と換算し、貸出資料数をカウントすることとした。これにより複数パックを同時に利用したり、パック以外の資料も合わせて借りたりできるようになり、学校の利用を促進した。</p> <p>全体的に利用が減少しているのは、学校図書館資料が充実してきていることと、学校現場へのタブレットが急速に普及したことが原因と考えられる。</p>												
今後の方針	読書を通じて子どもたちの主体的な問題解決能力や豊かな感性を育むことができるよう、学校連携パックの内容の創意工夫を図るとともに、学校図書館との連携・協力を更に強化させ、子どもたちの充実した読書環境や学習環境の整備に努める。												

事業名	関係諸機関との連携事業（取組 4-2-5）						
事業の目的	<p>関係部署と連携して企画展示や市内外の図書館との相互貸借の実施により、市民の学習や課題解決に資するさまざまな情報や資料を幅広く提供し、利便性とサービスの一層の向上を図る。</p>						
実施状況	<p>関係部署と連携して中央図書館の展示コーナーにおいて、高崎学検定や高崎フィルムコミッションについてなど、年間5回の企画展示を実施した。</p> <p>また、市外の公共図書館や近隣の大学図書館との相互貸借を積極的に展開し、市民が必要とする資料を迅速に提供することに努めた。</p> <p>実物の展示や公開が困難な貴重な歴史的資料9点について、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーで画像を追加公開した。</p> <p>◆相互貸借実績</p> <table border="1" data-bbox="368 696 904 846"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和4年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借受</td> <td>1,443 件</td> </tr> <tr> <td>貸出</td> <td>1,792 件</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度実績		借受	1,443 件	貸出	1,792 件
令和4年度実績							
借受	1,443 件						
貸出	1,792 件						
評価検証	<p>関係部署と連携して館内での企画展示を実施し、市民にさまざまな行政に関する情報を提供するとともに、市外図書館との相互貸借により、幅広い資料や情報を市民に提供することができた。</p> <p>また、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、当館が所蔵する貴重な歴史的資料をデジタル画像として広く公開することができた。</p>						
今後の方針	<p>関係部署との連携によるさまざまな企画展示を継続するとともに、貴重な歴史的資料のデジタル化を推進して積極的な公開に努めるなど、更なるサービスの向上を図る。</p>						

点検・評価シート

施策の視点	5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	担当課
		文化財保護課
取組	5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり 5-3 市民への文化財情報の提供 5-4 文化財に親しむための環境づくり 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり 5-7 民俗資料の収集と展示 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動 5-9 市民に開かれた資料館の運営 5-10 市民の学習活動の支援	

事業名	文化財保存活用地域計画の策定・推進事業（取組 5-1）
事業の目的	市民共有の文化遺産の適切な保存、有効な活用方法や整備のあり方について文化財保存活用地域計画の策定を検討する。
実施状況	本市に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、文化財をその周辺環境を含めて総合的に保存・活用するための計画である文化財保存活用地域計画の策定を進めた。
評価検証	文化財保存活用地域計画策定のため、素案の作成を行った。
今後の方針	文化財保存活用地域計画の策定を目指す。

事業名	日高遺跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡日高遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>J R 上越線南側区域の整備工事を行い、電気設備等を設置した。</p> <p>開園した J R 線北側区域では、復元した弥生時代の水田を活用し、地元で組織された「日高遺跡をともに楽しむ会」の会員で、稲作と未使用水田部に菜の花の育成を行った。また、業務委託により除草等の管理を行った。</p> <p style="text-align: right;"></p> <p style="text-align: right;">整備完成予想図</p> <p>◆事業進捗率（令和 4 年度）</p> <table border="1" data-bbox="359 833 860 931"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>4%</td> <td>56%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;"></p> <p style="text-align: right;">稲作体験（田植え）の様子</p>	目標	実績	通算実績	4%	4%	56%
目標	実績	通算実績					
4%	4%	56%					
評価検証	上越線南側区域の整備工事を実施した。また、上越線北側区域で復元した水田では、地元で組織された活用団体の会員が稲作体験などを実施し、公園の利用のあり方について市民の関心が高まった。						
今後の方針	J R 上越線南側区域の整備工事を推進する。						

事業名	箕輪城跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡箕輪城跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡整備基本設計に基づき、本丸西虎口整備工事を実施した。</p> <p>◆事業進捗率（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="373 488 896 589"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6%</td> <td>4%</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="395 645 865 1014" style="text-align: center;">  <p>整備完成予想図</p> </div> <div data-bbox="938 645 1444 1014" style="text-align: center;">  <p>本丸西虎口工事箇所と本丸・蔵屋敷間木橋</p> </div> </div>	目標	実績	通算実績	6%	4%	81%
目標	実績	通算実績					
6%	4%	81%					
評価検証	<p>整備工事に着手して12年目になり、郭馬出地区に引き続き、本丸地区の整備が着々と進んでいる状況である。令和3年度末に本丸・蔵屋敷間木橋が完成したことにより、箕輪城跡の特徴である巨大な堀切を木橋の上から体感できるようになった。令和4年度には木橋についてHPや現地案内看板などで情報を発信し、広報活動につとめた。今後も本丸の整備をさらに進めることによって、来訪者の史跡に対する理解を深めるとともに、市民の関心を高めていきたい。</p>						
今後の方針	本丸地区の整備工事を推進する。						

事業名	北谷遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡北谷遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>平成23年度に策定された保存管理計画をもとに、28年度から史跡地の公有地化に着手した。</p> <p>なお、令和2年には史跡の追加指定があり、面積が約3.6haから約3.8haに増加した。</p> <p>令和4年度は、除草等の史跡管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="373 770 944 869"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2%</td> <td>0%</td> <td>91%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	2%	0%	91%	 <p data-bbox="1123 797 1294 824">北谷遺跡航空写真</p>
目標	実績	通算実績						
2%	0%	91%						
評価検証	北谷遺跡について、地元の関心が高まっている。							
今後の方針	史跡整備に向けた発掘調査を進めていく。							

事業名	上野国多胡郡正倉跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡上野国多胡郡正倉跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡地周辺の開発が進む中で、史跡を恒久的に保存し積極的な公開活用を図るため、令和3年度から史跡地の公有地化に着手し、4年度も実施した。</p> <p>◆事業進捗率（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="373 533 944 633"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15%</td> <td>19%</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>上野国多胡郡正倉跡航空写真</p>	目標	実績	通算実績	15%	19%	24%
目標	実績	通算実績					
15%	19%	24%					
評価検証	史跡の公有地化を進め、着実に保存管理できる箇所ができたが、未公有地が多く残る。更なる公有地化によって、上野国多胡郡正倉跡の保存整備について、地元の関心を高めていきたい。						
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。						

事業名	山名古墳群保存整備事業（取組 5-2）	
事業の目的	市指定史跡山名古墳群を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。	
実施状況	<p>除草等の維持管理を行い、来訪者が見学しやすいよう、駐車場を含め環境を整えている。</p> <p>駐車場は、山上碑見学のための大型バス駐車場としても使用している。</p>	 <p data-bbox="1150 837 1347 864">山名古墳群航空写真</p>
評価検証	維持管理を継続しており、整備については、今後の検討課題となっている。	
今後の方針	上野三碑や他の史跡との一体的活用について検討を進めていく。	

事業名	「世界の記憶 上野三碑」関連事業（取組 5-2・5-3・5-4・5-10）
事業の目的	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の周知活動や周辺環境整備、保存管理等を実施する。
実施状況	<p>ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の保存活用を進めるため、三碑一帯の整備、多胡碑記念館の機能強化、ボランティア団体との連携、動画配信や各種パンフレットを活用した情報発信、民間団体との協力による地域振興、児童生徒への教育振興に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野三碑普及推進会議の運営 令和元年度に作成した「上野三碑かるた」を市内全小・中学校及び関係機関に配布した。 上野三碑ユネスコ登録5周年記念事業として、上野三碑の公開、第1回上野三碑かるた大会、かるた原画・原書展を開催した。 参加者同士の間隔を十分にとるなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、かるた大会を開催し、かるたを通じて参加者が楽しみながら上野三碑や文化財への理解を深められた。また、かるた原画・原書展を協力企業と共催し、上野三碑レプリカを展示するなど、上野三碑をより身近に感じられる機会を提供して、普及を図った。 ・上野三碑めぐりバスの運行 ・多胡碑記念館入館料の無料化 ・ボランティア団体等への補助 上野三碑ボランティア会 山上碑・金井沢碑を愛する会 上野三碑をつなぐ会 ・副教材の配布 市立小学校、中学校の新1年生児童生徒 ・レプリカの展示・貸出 高崎駅コンコース（通年展示）、南八幡公民館 ・ロゴマークの普及・使用許可 ・周知事業 パンフレット作成及び配布、高崎駅ペDESTリアンデッキ看板設置等 ・環境整備 ボランティア団体と共同による作業
評価検証	上野三碑の公開、第1回上野三碑かるた大会、かるた原画・原書展の開催により、上野三碑や文化財への理解を深められ、上野三碑の付加価値が高められた。
今後の方針	地元ボランティア団体等と引き続き協力し、上野三碑の更なる普及・推進に努めたい。



第1回上野三碑かるた大会



上野三碑副教材(小・中学生対象)

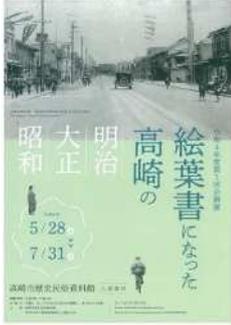
事業名	文化財保存活用事業（取組 5-2・5-6）																																
事業の目的	市内に点在する指定文化財を保護するとともに、史跡・重要文化財等の一般公開を実施する。また、文化財愛護精神の高揚を図るため、文化財作文コンクールなど参加型の関連事業を開催する。																																
実施状況	<p>保護普及活動事業として、文化財作文コンクールの実施、上豊岡の茶屋本陣等の歴史的建造物の公開をした。ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の公開は、令和4年10月と5年3月に開扉し広く公開した。</p> <p>◆文化財作文コンクール応募者数</p> <table border="1" data-bbox="379 636 935 833"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,500人</td> <td>568人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>600人</td> <td>879人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>600人</td> <td>864人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>文化財作文コンクール授賞式</p> <p>◆上豊岡の茶屋本陣見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 931 935 1128"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,000人</td> <td>440人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>500人</td> <td>809人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>500人</td> <td>775人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>一般公開当日の山上碑</p> <p>◆上野三碑一般公開見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1225 935 1422"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度（中止）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度（2日公開）</td> <td>603人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度（3日公開）</td> <td>1,534人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和2年度	1,500人	568人	令和3年度	600人	879人	令和4年度	600人	864人	年度	目標	実績	令和2年度	1,000人	440人	令和3年度	500人	809人	令和4年度	500人	775人	年度	実績	令和2年度（中止）	—	令和3年度（2日公開）	603人	令和4年度（3日公開）	1,534人
年度	目標	実績																															
令和2年度	1,500人	568人																															
令和3年度	600人	879人																															
令和4年度	600人	864人																															
年度	目標	実績																															
令和2年度	1,000人	440人																															
令和3年度	500人	809人																															
令和4年度	500人	775人																															
年度	実績																																
令和2年度（中止）	—																																
令和3年度（2日公開）	603人																																
令和4年度（3日公開）	1,534人																																
評価検証	文化財作文コンクール応募者数、上豊岡の茶屋本陣見学者数は前年度実績と同水準となった。上野三碑一般公開見学者数については大幅に回復し、コロナ前の水準に戻ってきた。また、上野三碑解説動画の公開を継続し、引き続き外出しなくても文化財に親しむ機会を持てるように、希望に応じて選択できるよう工夫した。																																
今後の方針	指定文化財の適切な保存管理に努め、文化財が身近に感じられるようなイベントの開催など、文化財への理解を促していきたい。																																

事業名	埋蔵文化財調査事業（取組 5-3・5-4）												
事業の目的	開発事業によって壊される遺跡の出土品などを展示し、その成果を広く市民に公開する。前橋高崎連携事業の一つとして文化財展を実施し、両市の市民が郷土史への理解を深めるような展示を行う。												
実施状況	<p>前橋市との連携展示会をシティギャラリーで実施した。</p> <p>◆連携展入場者数</p> <table border="1" data-bbox="371 539 932 739"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,200 人</td> <td>417 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>500 人</td> <td>634 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>500 人</td> <td>645 人</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="368 788 876 1167" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="903 788 1410 1167" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="368 1173 876 1552" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="903 1173 1410 1552" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">高崎会場展示品</p>	年度	目標	実績	令和 2 年度	1,200 人	417 人	令和 3 年度	500 人	634 人	令和 4 年度	500 人	645 人
年度	目標	実績											
令和 2 年度	1,200 人	417 人											
令和 3 年度	500 人	634 人											
令和 4 年度	500 人	645 人											
評価検証	「防ぎ・護り・祓う 一乗り越える災厄 先人たちの知恵」と題し、本市と前橋市の出土品の中から災害や疫病・戦乱から生命や財産を守るために先人たちが行ったことを示す資料を展示し、市民の文化財に対する理解が深まった。												
今後の方針	発掘調査によって得られた資料をより生かすため、公開の場を増やし、文化財保護の保存と活用を図る。												

事業名	多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業（取組 5-3）							
事業の目的	多胡郡衙等の遺跡の所在、範囲及び性格を明らかにすることにより、多胡碑の史跡としての価値を高めるとともに、多胡碑の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>12年目（全16年）の調査となった令和4年度は奈良時代の郡衙施設の有無を確認するため、正倉院北地区において116.5㎡を調査し、奈良時代の区画溝などを確認した。</p> <p>◆事業進捗率（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="379 669 924 770"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6%</td> <td>6%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	6%	6%	75%	 <p data-bbox="1145 689 1235 712">遺跡遠景</p>  <p data-bbox="1118 1070 1267 1093">確認した区画溝</p>
目標	実績	通算実績						
6%	6%	75%						
評価検証	正倉院北地区では昨年度に引き続き区画溝を調査した。東側に位置する昨年度調査地区よりこの溝が続いていることが判明し成果となったが、今年度調査区より西では続かないことがわかり、今後の課題となった。							
今後の方針	<p>正倉院北地区で奈良時代のものと思われる区画溝を発掘したことから、溝に囲まれる遺跡の範囲の確定、及び内部施設の発掘による遺跡の性格を明らかにするために確認調査を継続する。</p> <p>また、市民に遺跡の重要性を伝える公開活動を継続していく。</p>							

事業名	上野国分尼寺跡範囲確認調査事業（取組 5-3）						
事業の目的	上野国分尼寺跡の寺域範囲や施設配置等を調査することにより、国分尼寺の史跡としての価値を高めるとともに、国分尼寺の重要性等について周知を図る。						
実施状況	<p>7年目（全14年）の調査となった令和4年度は、過去6年間の発掘調査成果について整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。</p> <p>その他、寺院の隣接地の状況を探るために寺院北東隅外側において18㎡を調査した。</p> <p>◆事業進捗率（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="384 831 887 931"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7%</td> <td>7%</td> <td>54%</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="975 353 1433 658" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1059 689 1295 712">刊行した発掘調査報告書</p> <div data-bbox="975 730 1433 1043" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1107 1055 1262 1077">確認調査の状況</p>	目標	実績	通算実績	7%	7%	54%
目標	実績	通算実績					
7%	7%	54%					
評価検証	平成28年度から令和2年度までの6年間で行った発掘調査を報告書として刊行することで、その成果を公にすることができ、遺跡の啓発や活用に用いるための基礎資料として準備することができた。						
今後の方針	<p>今後も遺跡の外部施設等を明らかにするため確認調査を継続するとともに、史跡指定を目指していく。</p> <p>また、地元住民及び地権者に遺跡の重要性を伝えていく。</p>						

事業名	文化財調査事業（取組 5-5・5-6）										
事業の目的	文化財の把握・保護に取り組むため、指定文化財の所在調査や未指定文化財等の詳細調査、指定文化財の修理や案内板等の設置を行う。										
実施状況	<p>指定文化財所在確認調査や建造物調査を実施した。 国指定重要文化財榛名神社や県指定文化財等の保存修理を実施した。 指定文化財の説明板を設置し、文化財の普及に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="373 533 949 781"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財所在確認調査数</td> <td>68 件</td> </tr> <tr> <td>建造物調査</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>文化財修理件数</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>指定文化財説明板設置件数</td> <td>3 件</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="368 851 895 1240">  <p style="text-align: center;">榛名神社拝殿屋根修理状況</p> </div> <div data-bbox="922 851 1449 1240">  <p style="text-align: center;">市指定史跡説明板設置</p> </div> </div>	事業の内容	件数	文化財所在確認調査数	68 件	建造物調査	2 件	文化財修理件数	5 件	指定文化財説明板設置件数	3 件
事業の内容	件数										
文化財所在確認調査数	68 件										
建造物調査	2 件										
文化財修理件数	5 件										
指定文化財説明板設置件数	3 件										
評価検証	市内指定文化財の所在確認調査の実施や建造物調査を行い、文化財の保存管理状況などを確認し、課題等を把握することにより改善を図っている。また、指定文化財の説明板を設置することで、文化財を周知することができた。										
今後の方針	今後の文化財指定・保護の資料とするため、各種文化財の調査事業を充実させる。										

事業名	歴史民俗資料館運営事業（取組 5-7・5-8）																																								
事業の目的	昔の人の生活文化を知り市民生活の推移を理解していくため、歴史民俗資料の収集や企画展の開催、体験的な学習活動を実施する。																																								
実施状況	<p>○歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="375 392 1444 683"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「絵葉書になった高崎の明治大正昭和」 令和 4. 5. 28～7. 31 入館者 1,209 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>企画展「こどものための電気がある暮らし」 令和 4. 9. 26～5. 2. 26 入館者 3,429 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">団体見学受入、小学校社会科見学受入</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 728 917 929"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>6,500 人</td> <td>4,340 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>5,100 人</td> <td>4,653 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>4,600 人</td> <td>5,470 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>企画展「絵葉書になった高崎の明治大正昭和」</p>  <p>○榛名歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="375 1025 1444 1272"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「戦国武将から榛名神社に発給された文書展」 令和 4. 7. 1～11. 30 入館者 1,908 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>榛名神社史跡めぐり 令和 4. 10. 7 参加者 17 人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>榛名の歴史を知る講演会 令和 4. 11. 18 参加者 25 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◆榛名歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 1321 917 1523"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>8,000 人</td> <td>2,973 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>3,100 人</td> <td>2,901 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>3,200 人</td> <td>3,407 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容		企画展「絵葉書になった高崎の明治大正昭和」 令和 4. 5. 28～7. 31 入館者 1,209 人		企画展「こどものための電気がある暮らし」 令和 4. 9. 26～5. 2. 26 入館者 3,429 人		団体見学受入、小学校社会科見学受入		年度	目標	実績	令和 2 年度	6,500 人	4,340 人	令和 3 年度	5,100 人	4,653 人	令和 4 年度	4,600 人	5,470 人	事業の内容		企画展「戦国武将から榛名神社に発給された文書展」 令和 4. 7. 1～11. 30 入館者 1,908 人		榛名神社史跡めぐり 令和 4. 10. 7 参加者 17 人		榛名の歴史を知る講演会 令和 4. 11. 18 参加者 25 人		年度	目標	実績	令和 2 年度	8,000 人	2,973 人	令和 3 年度	3,100 人	2,901 人	令和 4 年度	3,200 人	3,407 人
事業の内容																																									
企画展「絵葉書になった高崎の明治大正昭和」 令和 4. 5. 28～7. 31 入館者 1,209 人																																									
企画展「こどものための電気がある暮らし」 令和 4. 9. 26～5. 2. 26 入館者 3,429 人																																									
団体見学受入、小学校社会科見学受入																																									
年度	目標	実績																																							
令和 2 年度	6,500 人	4,340 人																																							
令和 3 年度	5,100 人	4,653 人																																							
令和 4 年度	4,600 人	5,470 人																																							
事業の内容																																									
企画展「戦国武将から榛名神社に発給された文書展」 令和 4. 7. 1～11. 30 入館者 1,908 人																																									
榛名神社史跡めぐり 令和 4. 10. 7 参加者 17 人																																									
榛名の歴史を知る講演会 令和 4. 11. 18 参加者 25 人																																									
年度	目標	実績																																							
令和 2 年度	8,000 人	2,973 人																																							
令和 3 年度	3,100 人	2,901 人																																							
令和 4 年度	3,200 人	3,407 人																																							
評価検証	令和 2 年の登録有形文化財登録を機に「建物全体が展示物」というコンセプトを継続しながら、常設展示、2 回の企画展開催、団体見学や小学校の社会科見学の受け入れを積極的に行った。一般来館、団体・社会科見学の人数ともに、コロナ前の水準に戻りつつある。また、小学校の社会科見学実施時期に合わせて、企画展「こどものための電気がある暮らし」の開期を設定し、体験学習とともに、職員による解説だけでなく、クイズ形式や気づきを大切にされた発表の機会を設け、内容の充実を図った。榛名歴史民俗資料館は、榛名神社近くの観光地に立地しており、コロナの影響は回復傾向にあるため、地域の観光行事やイベントに積極的に協力し、企画展等の開催や榛名林間学校の生徒の受け入れにより集客した。																																								
今後の方針	地元で根ざした資料館として特色ある企画展等を開催し、入館者の増加と満足度向上に努めていく。																																								

事業名	観音塚考古資料館運営事業（取組 5-9・5-10）																						
事業の目的	誰もが身近に考古学に親しめるよう、観音塚古墳出土品を中心とした企画展、体験学習の場を提供する。																						
実施状況	<table border="1" data-bbox="375 371 1441 719"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設展</td> <td>「観音塚古墳の世界」</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展</td> <td>「古墳時代のものづくり」 令和 4. 3. 30～10. 2 入館者 3, 432 人</td> </tr> <tr> <td>企画展</td> <td>「地方から見た継体朝とその前後」 令和 4. 10. 8～12. 4 入館者 2, 560 人</td> </tr> <tr> <td>講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、体験学習「古代にチャレンジ」（まが玉作り、ミニハニワ作り、土鈴作り）の実施</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="384 734 825 1064">  <p data-bbox="416 1081 817 1133">企画展「地方から見た継体朝とその前後」 学芸員による解説</p> </div> <div data-bbox="922 734 1362 1064">  <p data-bbox="938 1081 1362 1111">体験学習「古代にチャレンジ」（まが玉作り）</p> </div> </div> <p data-bbox="357 1184 743 1218">◆観音塚考古資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="371 1227 927 1424"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>8, 000 人</td> <td>5, 932 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>6, 100 人</td> <td>5, 368 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>6, 300 人</td> <td>7, 097 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容		常設展	「観音塚古墳の世界」	ミニ企画展	「古墳時代のものづくり」 令和 4. 3. 30～10. 2 入館者 3, 432 人	企画展	「地方から見た継体朝とその前後」 令和 4. 10. 8～12. 4 入館者 2, 560 人	講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、体験学習「古代にチャレンジ」（まが玉作り、ミニハニワ作り、土鈴作り）の実施		年度	目標	実績	令和 2 年度	8, 000 人	5, 932 人	令和 3 年度	6, 100 人	5, 368 人	令和 4 年度	6, 300 人	7, 097 人
事業の内容																							
常設展	「観音塚古墳の世界」																						
ミニ企画展	「古墳時代のものづくり」 令和 4. 3. 30～10. 2 入館者 3, 432 人																						
企画展	「地方から見た継体朝とその前後」 令和 4. 10. 8～12. 4 入館者 2, 560 人																						
講演会、歴史ウォーク、学芸員による展示解説の実施、団体見学受入、小学校社会科見学受入、体験学習「古代にチャレンジ」（まが玉作り、ミニハニワ作り、土鈴作り）の実施																							
年度	目標	実績																					
令和 2 年度	8, 000 人	5, 932 人																					
令和 3 年度	6, 100 人	5, 368 人																					
令和 4 年度	6, 300 人	7, 097 人																					
評価検証	<p>入館者数は、前年対比 20% 増となった。6 世紀前半の群馬県内の古墳と出土品を紹介した企画展の入館者数は、前年より更に増加した。また、定員を以前の半数以下にするなど感染症対策を継続して行いながら、講演会と歴史ウォーク、学芸員による展示解説を行った。体験学習「古代にチャレンジ」シリーズを実施した。歴史を学ぶ前に社会科見学で来館する小学生向けのワークシートをわかりやすく改良したところ、好評であった。</p>																						
今後の方針	<p>学校教育・社会教育関連施設、文化振興・観光関連部局と連携し、教育施設として有効に活用されるよう努める。歴史愛好者のニーズに応えられるよう企画展等の充実を図るとともに、メディアへの情報提供など積極的な広報活動を心掛け、館の認知度を高める。</p>																						

事業名	かみつけの里博物館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																								
事業の目的	国指定史跡保渡田古墳群とその周辺遺跡にかかわる考古資料の収集・保存・調査研究を行うとともに、常設展示・各種展覧会や体験学習等を通して、学習の場を提供する。																																								
実施状況	<table border="1" data-bbox="368 398 1433 853"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「わくわく！博物館たんけん`22」</td> <td>令和 4. 6. 1～11. 6</td> <td>入館者</td> <td>20, 882 人</td> </tr> <tr> <td>企画展「わくわく！はにわ体験`23」</td> <td>令和 5. 3. 25～3. 31</td> <td>入館者</td> <td>850 人</td> </tr> <tr> <td>定期歴史講座「かみつけ塾」</td> <td>1 2 回実施</td> <td>参加者</td> <td>661 人</td> </tr> <tr> <td>石の勾玉作り体験</td> <td>令和 4. 7. 31～8. 5</td> <td>参加者</td> <td>150 人</td> </tr> <tr> <td>総合的学習の時間参加者</td> <td>上郊小学校 6 年生</td> <td>延べ</td> <td>252 人</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）</td> <td>令和 4. 10. 16</td> <td>来場者</td> <td>約 2, 000 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="424 913 839 1223" style="text-align: center;">  <p>定期歴史講座「かみつけ塾」</p> </div> <div data-bbox="940 913 1355 1223" style="text-align: center;">  <p>企画展「わくわく博物館たんけん`22」</p> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;">◆かみつけの里博物館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="395 1330 975 1529"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>45, 000 人</td> <td>36, 592 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>47, 000 人</td> <td>31, 422 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>38, 500 人</td> <td>38, 592 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				企画展「わくわく！博物館たんけん`22」	令和 4. 6. 1～11. 6	入館者	20, 882 人	企画展「わくわく！はにわ体験`23」	令和 5. 3. 25～3. 31	入館者	850 人	定期歴史講座「かみつけ塾」	1 2 回実施	参加者	661 人	石の勾玉作り体験	令和 4. 7. 31～8. 5	参加者	150 人	総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生	延べ	252 人	第 1 2 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	令和 4. 10. 16	来場者	約 2, 000 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	45, 000 人	36, 592 人	令和 3 年度	47, 000 人	31, 422 人	令和 4 年度	38, 500 人	38, 592 人
事業の内容																																									
企画展「わくわく！博物館たんけん`22」	令和 4. 6. 1～11. 6	入館者	20, 882 人																																						
企画展「わくわく！はにわ体験`23」	令和 5. 3. 25～3. 31	入館者	850 人																																						
定期歴史講座「かみつけ塾」	1 2 回実施	参加者	661 人																																						
石の勾玉作り体験	令和 4. 7. 31～8. 5	参加者	150 人																																						
総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生	延べ	252 人																																						
第 1 2 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	令和 4. 10. 16	来場者	約 2, 000 人																																						
年度	目標	実績																																							
令和 2 年度	45, 000 人	36, 592 人																																							
令和 3 年度	47, 000 人	31, 422 人																																							
令和 4 年度	38, 500 人	38, 592 人																																							
評価検証	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を実施したため、年間入館者数は前年比で約 20%増加した。令和 4 年 6 月からは学校の校外学習に対応するために子ども向け企画展を開催した。また、古墳見学用の資料やワークシートを新たに作成した。定期歴史講座「かみつけ塾」と古墳祭りは、3 年ぶりに実施することができた。																																								
今後の方針	館蔵品について活用を図りながら適切な管理を行う。また、魅力ある展覧会を行うとともに、新たに作成した教職員用ガイドブックを使って楽しく学べる事業実施にも努める。歴史遺産を確実に継承していくため、市民との協働により事業を実施していく。																																								

事業名	多胡碑記念館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）												
事業の目的	多胡碑を中心とした資料等を収集・展示し市民の理解を深めるとともに、山上碑・金井沢碑を含めユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の情報発信を図る。												
実施状況	<div style="text-align: center; background-color: #cccccc; padding: 5px;">事業の内容</div> <p>常設展示 上野三碑のレプリカをはじめとした石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物、中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示</p> <p>企画展示 収蔵拓本展「日本三古碑」 令和 4. 4. 23～7. 3 入館者 2,089 人 こどものためのコウズケサンピ 令和 4. 7. 23～9. 4 入館者 726 人 第 4 4 回企画展「知りたい！多胡郡正倉」 令和 4. 10. 8～11. 27 入館者 2,136 人 第 2 6 回多胡碑記念館吉井こども書道展 令和 5. 1. 21～2. 12 入館者 490 人</p> <p>上野三碑一般公開 令和 5. 3. 12 入館者 280 人</p> <p>団体見学受入、小学校社会科見学受入、学芸員による展示解説の実施、体験学習（拓本体験）の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>第 44 回企画展「知りたい！多胡郡正倉」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>拓本体験</p> </div> </div> <p>◆多胡碑記念館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>18,000 人</td> <td>7,703 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>8,200 人</td> <td>8,689 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>7,800 人</td> <td>8,417 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	令和 2 年度	18,000 人	7,703 人	令和 3 年度	8,200 人	8,689 人	令和 4 年度	7,800 人	8,417 人
年度	目標	実績											
令和 2 年度	18,000 人	7,703 人											
令和 3 年度	8,200 人	8,689 人											
令和 4 年度	7,800 人	8,417 人											
評価検証	多胡碑を含む上野三碑のガイダンス施設として、上野三碑のレプリカや関連資料、遺物などを常設展示し、上野三碑の情報を発信している。令和 4 年度は、企画展関連事業で、「展示解説会と多胡郡正倉跡探訪会」を実施し、発掘作業に携わっている職員の解説を聞きながら発掘現場の見学を行った。ユネスコ「世界の記憶」登録から 5 周年となった 4 年度は、群馬県立歴史博物館などと連携して実施した秋の企画展が好評を博した。												
今後の方針	上野三碑見学の拠点として、上野三碑に関する展示の更なる充実に向け、引き続き学校教育、社会教育、生涯学習の場としての機能を充実させる。関係するボランティア団体と連携し来館者へ対応するとともに、積極的に情報発信し、公園のある施設としての特色を生かしながら、何度も訪れたいくなるような魅力的な企画展の開催を心がける。												

事業名	吉井郷土資料館運営事業（取組 5-3・5-7・5-9）																																																
事業の目的	地域の歴史・民俗資料の収集・保管及び調査・研究を行い、それに伴う講演会、体験学習等を行うことで市民が歴史的遺産に親しみ、郷土愛を育む場や機会を提供する。																																																
実施状況	<table border="1" data-bbox="375 398 1452 922"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">常設展示</td> </tr> <tr> <td colspan="4">1階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料</td> </tr> <tr> <td colspan="4">2階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ</td> </tr> <tr> <td>企画展「穂積地区の宝物」</td> <td>令和 5. 1. 7～2. 26</td> <td>入館者</td> <td>318 人</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展「原動車展」</td> <td>令和 4. 6. 4～7. 10</td> <td>入館者</td> <td>305 人</td> </tr> <tr> <td>「開館 50 周年記念展」</td> <td>令和 4. 11. 3～11. 27</td> <td>入館者</td> <td>336 人</td> </tr> <tr> <td>講演会「開館当時をふりかえる「吉井今昔」</td> <td>令和 4. 11. 26</td> <td>参加者</td> <td>39 人</td> </tr> <tr> <td>「穂積親王伝説と多胡碑」</td> <td>令和 5. 1. 28</td> <td>参加者</td> <td>29 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="411 992 847 1285">  <p style="text-align: center;">企画展の様子</p> </div> <div data-bbox="938 992 1394 1285">  <p style="text-align: center;">講演会の様子</p> </div> </div> <p>◆吉井郷土資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="387 1377 940 1576"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>3,300 人</td> <td>1,894 人</td> </tr> <tr> <td>令和 3 年度</td> <td>2,200 人</td> <td>1,872 人</td> </tr> <tr> <td>令和 4 年度</td> <td>2,000 人</td> <td>1,820 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				常設展示				1階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料				2階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ				企画展「穂積地区の宝物」	令和 5. 1. 7～2. 26	入館者	318 人	ミニ企画展「原動車展」	令和 4. 6. 4～7. 10	入館者	305 人	「開館 50 周年記念展」	令和 4. 11. 3～11. 27	入館者	336 人	講演会「開館当時をふりかえる「吉井今昔」	令和 4. 11. 26	参加者	39 人	「穂積親王伝説と多胡碑」	令和 5. 1. 28	参加者	29 人	年度	目標	実績	令和 2 年度	3,300 人	1,894 人	令和 3 年度	2,200 人	1,872 人	令和 4 年度	2,000 人	1,820 人
事業の内容																																																	
常設展示																																																	
1階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料																																																	
2階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ																																																	
企画展「穂積地区の宝物」	令和 5. 1. 7～2. 26	入館者	318 人																																														
ミニ企画展「原動車展」	令和 4. 6. 4～7. 10	入館者	305 人																																														
「開館 50 周年記念展」	令和 4. 11. 3～11. 27	入館者	336 人																																														
講演会「開館当時をふりかえる「吉井今昔」	令和 4. 11. 26	参加者	39 人																																														
「穂積親王伝説と多胡碑」	令和 5. 1. 28	参加者	29 人																																														
年度	目標	実績																																															
令和 2 年度	3,300 人	1,894 人																																															
令和 3 年度	2,200 人	1,872 人																																															
令和 4 年度	2,000 人	1,820 人																																															
評価検証	年間入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり昨年度とほぼ同数であった。企画展「穂積地区の宝物」では、吉井町西部の穂積地区に焦点をあて、古代、中近世、近現代にわけてそれぞれの時期の特徴を示す宝物を紹介した。また、ミニ企画展を 2 回開催した。企画展関連事業として講演会を、定員数を制限するなどの感染症対策を行った上で 2 回実施した。																																																
今後の方針	地域に根ざした資料館として、収蔵品を整理、活用を図りながら特色ある事業を実施し、更に地域住民に愛される活動を続けていく。																																																

事業名	埋蔵文化財センター整備事業（取組 5-10）
事業の目的	発掘調査件数の急増により増加が見込まれる遺跡出土資料を体系的に保存・管理し、生涯学習や学校教育と連携した活用を推進するための拠点施設として、埋蔵文化財センターの整備を行う。
実施状況	今後の調査件数の見通しをつけ、現状での収蔵量や保管状態を確認した結果、増加していく出土品に対応するため、新たな保管施設が必要なことが確認された。
評価検証	これまで収蔵すべき資料の量を把握し、各地の先進事例について情報収集してきたが、今後はさらに活用事例を検討していく。
今後の方針	収蔵施設に転用可能な既存市有施設の情報を収集していく。

V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見

1 はじめに

高崎市の教育行政は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正による新教育委員会制度のもとで、総合教育会議で策定した「高崎市教育大綱」により、総合的な教育施策の目的や方針を掲げている。また、「高崎市教育大綱」に掲げる施策の視点のもと、年度ごとに「高崎市教育行政方針」による具体的な事業内容や目標を設定し、「点検・評価報告書」により成果を確認して評価を行っている。

「高崎市教育大綱」による新たな事業体系は、今回の点検・評価対象としている令和4年度事業で5年目を迎えた。この間、点検・評価報告を通して、成果を可視化するための指標の設定や再検討が行われており、事業目的の再構築や実施方法の改善につなげることで、新教育委員会制度が求める教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地域の民意を代表する首長との連携強化を着実なものとしていく必要がある。

令和4年度事業については、引き続きコロナ禍による制約はあるものの、「令和4年度教育行政方針」で定めた内容について、創意工夫と努力により、各事業における教育機能の維持のため、実情に応じた取組も行われている。この点にも焦点を当てながら、以下において各施策の視点ごとに点検・評価についての検証を行うものとする。

2 5つの施策の成果と課題について

★施策の視点1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

幼・保・小連携推進事業では、オンデマンド形式による教育講演会の実施に加え、ブロックごとに開催方法を工夫しながら研修会や情報交換ができたことは、各校園所の連携において大変意義があると認められる。今後はオンラインによるメリットを生かしながら、公開授業や公開保育の再開も視野に入れ、子どもの姿を通しての研修や情報交換により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努められたい。

子どもの学ぶ意欲向上事業では、各学校で指導体制を工夫し、単元構想、学習過程スタンダードに基づく授業づくりを行うことで、「授業がわかる」と答えた児童生徒が8割以上の学校の割合は今年度も100%に達した。また、1人1台端末の授業における効果的な活用事例を集めた「高崎市GIGAスクール構想における授業実践Ⅱ」の発行は、1人1台端末活用の学校間格差や教員間格差を縮める上でも大変有効であり、今後さらに本事例集の活用を推進されたい。

児童生徒の学力補充事業では、「イングリッシュフェスタ」「イングリッシュサマースクール」「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」において、参加した児童生徒の95%以上が講座に満足していることから、講座の質が高く、英語や数学の学習意欲向上につながっていると認められる。今後はオンラインと対面のそれぞれのよさを十分に検証した上で行事の開催方法を決定し、益々魅力ある事業となることを期待する。

英語教育指導事業では、コロナ禍にあってもALTの不足を配置の工夫や臨時ALTの活用によって補い、市内全ての児童生徒に対してネイティブスピーカーを生かした英語教育を行うことができた。また、4技能型外部試験の結果により、本事業の成果と課題について検証している点も評価できる。今後もALTの研修方法を工夫し、研修内容を充実させることで指導力向上に努められたい。

学力アップ推進事業では、「学力アップ大作戦」「中学生休日学習相談ステーション」とともに、参加者数等が増加しており、コロナ禍に対応した工夫等が効果を上げていると考えられる。今後も地域運営

委員会やコーディネーターへの適切な助言などに努め、学力向上に向けた家庭や地域との連携を一層推進されたい。

いじめ防止対策事業では、教育委員会が実施しているいじめ防止担当教諭研修会や子どもたちの会議等が市全体のいじめ防止に向けた取組を先導しており、各校の組織的な取組につながっていると考えられる。特に「高崎サイン」と「高崎サインの受け止め方」の策定、「ネットいじめ防止プログラム」は、コロナ禍におかれた子どもの内面に寄り添った支援や対応策であり、大いに評価できる。今後も児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指し、各校のいじめ防止に向けた取組を牽引していくことを期待する。

やるベンチャーウィーク推進事業では、感染状況を注視しながら、多くの学校で事業所での体験活動を実施することができ、地域の子どもは地域で育てるという機運を醸成し、地域とともにある学校づくりの推進につながっている。今後も生徒一人ひとりが社会とのつながりや「働くこと」の意義を実感できる取組となるよう努められたい。

「気になる子」対策事業では、補助金や人的配置によって、私立幼稚園、公立幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」への支援を充実させている。今後も幼児一人ひとりに寄り添った丁寧な支援を継続するために、引き続き幼児の実態や教育的ニーズに応じた事業の充実に努められたい。

読書活動推進事業では、各学校で図書館指導員を積極的に活用することで、学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能充実が図られている。学校図書館や学校図書館指導員を授業で活用するなど質の高い学習活動が展開されるよう、学校図書館指導員の研修の充実や担任等との連携に努められたい。

学校・家庭・地域連携事業では、地域住民や保護者の知識・技術を活用した授業や研修を実施している学校は目標値を下回ったが、活用実績には農業体験や地域のSDGsの取組を学ぶなど、地域住民や保護者の協力により、体験や学びの質を向上させている様子がうかがえる。今後も地域の教育力を積極的に活用し、学校・地域・保護者が連携・協働した取組を推進されたい。

学校教育力向上対策事業では、教員の人権感覚の高揚は、学習指導や生徒指導の基盤となるものであり、保護者や地域との信頼関係に直結するものであることから、人権教育講演会の実施は大変意義深いものである。学校現場における人権教育は重要性を一層増しており、今後も研修内容の充実や実施方法の工夫により、教職員の質的向上に資する事業となることを期待する。

通級指導教室推進事業では、年々小中学生の利用者数が増えているが、指導体制を工夫するとともに、指導教員のスキルアップを図りながら利用者の障害の軽減・改善に取り組んでいる。通級による指導の成果が通常の学級における授業や生活にも表れるよう、通級指導教室での指導者と在籍校の学級担任等のより一層の連携が望まれる。

教育調査研究・研修事業では、研修の内容に応じて対面・集合型の研修とオンラインによる研修を併用し、受講者のニーズに応じた研修内容等の工夫をしたことで、参加者数の増加に結び付いている。今後も研修内容や受講者の実態に応じた研修形態等の工夫や受講者同士の学び合い、今日的教育課題や困り感の解消につながる研修内容等の質の向上を図られたい。

教育支援センター推進事業では、感染症対策を講じながら、3年ぶりに教育支援センター8教室合同行事を実施できたことは、児童生徒間の交流を図れたと評価できる。また、多様化する不登校児童生徒や保護者に対して、一人ひとりの思いに寄り添い学校・関係機関と連携し組織的な対応をしたことにより、不登校児童生徒に対する通室児童生徒の割合は大幅に増加した。今後も不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談や支援を充実さ

せ、社会的自立を援助していくことを期待する。

学力向上推進事業では、少人数学級やシラバスに沿った授業展開により、確かな学力の定着を促す取組が見られ、座学にとどまらず、協働作業を通じてより深い学びが実現されている。教員も研究や修養に励み、授業力向上セミナーにも積極的に参加しており、今後も生徒の興味や関心を引上げ、自己表現力を伸ばす「主体的・対話的で深い学び」に取り組むことを期待する。

キャリア教育推進事業では、「総合的な探究の時間」の学習プログラムの中に、1年次には生徒が社会で活躍する大人をインタビューする「仕事インタビュー」、2年次には興味関心に基づく探究活動、3年次には卒業後のキャリアについて具体的に考えるプログラムを実施したことは、キャリア教育に係る体験学習の充実を図ったと評価できる。今後も「キャリア」の視点を取り入れ、一貫性と相互効果を期待できるようなキャリア教育の充実に努められたい。

国際教育推進事業では、全生徒が意欲的に英語検定を受検する環境が整っていることが、実績にも顕著に表れている。また、コロナ禍の影響で、海外研修や海外の生徒との対面での交流会は実施できなかったが、オンライン会議システムを用いた交流会や校内短期留学プログラムは実施し、コミュニケーション能力の育成を図ったと認められる。国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、更なる国際教育の推進を図られたい。

★施策の視点2 子どもたちの心身の健康と体力の向上

児童生徒等健康管理対策事業では、感染症対策を講じながら、定期健康診断を11月末までに全ての学校で終了し、学校保健統計も作成できた。また、高崎市の児童生徒のDMF歯数は国の目標値をクリアし、小学校0.19中学校0.65となっている。令和4年度は、歯と口の健康づくりの取組について多くの学校が表彰されており、特に全日本学校歯科保健優良校表彰で小学校1校、中学校1校が奨励賞を受賞していることは、児童生徒が自分の健康に関心をもち、一人ひとりの努力、学校内での保健活動、学校歯科医による検診・助言などが、大きな成果として結びついたと評価できる。

学校保健充実事業では、昨年度より多くの学校が感染症対策を講じながら工夫して講演会等を実施することができ、事業の継続に努めたことは評価できる。「命の大切さ」の出前授業を実施した学校では、児童生徒が、自分は大切に育てられ成長してきたことを実感し、両親、家族や周囲の人たちの思いに気付くことができた。引き続き、希望する学校ができる限り受講できるよう、事業の更なる発展を期待する。

部活動充実事業では、各中学校に部活動指導員の配置や運動部への外部指導者を派遣することで、教職員の心理的負担や勤務時間の軽減が着実に推進され、生徒の技能の向上やけがの防止が図られている。地域人材を各校の部活動運営の中へ位置づけることで、持続可能な部活動となることや、保護者や生徒の実情に合った活動となるため、更に部活動運営に携わる地域人材の発掘に期待する。また、休日の部活動の段階的な地域移行への取組として、市スポーツ協会、市スポーツ課と情報交換を行い、市内のスポーツクラブ等の関係団体と連携して、実情に応じた方法について検討を進めていることは評価できる。

学校体育充実事業では、タブレット等のICT活用による体育の授業改善に取り組んだことで、自己の課題を視覚的に明確化し、個々の課題解決に必要な基本的技能や知識を身に付けながら、主体的に取り組む姿勢を育てていることは評価できる。今後も「主体的・対話的で深い学び」となるように、より一層取組を期待する。更には、新体力テストの実施からみえてきた持久力や投力の低下等の学校課題を明確にし、体育授業や体育集会などにおいて課題解決を図る活動を取り入れるなど、全校体制による計

画的・組織的な取組を推進するよう努められたい。

交通教室事業では、外部機関との連携による交通安全教室の実施などによって安全に対する意識が高まり、交通事故件数の減少につながっていると考えられ一定の評価はできる。引き続き和田橋交通公園での交通安全教室を中心に、小学生における自転車交通事故ゼロを目指して、地域の実情に応じた交通安全教室が実施できるよう、関係団体と協力した事業を推進していくことを期待する。

給食充実事業では、物価の変動を注視しながら、旬の食材を使用した献立の工夫や、地場産等の食材の発注を変更するなど、柔軟に対応したことは評価できる。また、生産者や関係機関から生育状況や生産量等の情報を収集し、使用促進に向けた工夫を続けることで、児童生徒が地元の農産物・農業への関心を高める機会の創出に努められたい。栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、季節に合わせた食材による献立や、伝統的な食文化や行事食、食品の産地や特徴を指導することで、児童生徒が地元の農産物や生産者に関心を持ち、その献立を話題にするとともに、残さず食べようとする気持ちが高められるよう、食に関する指導の充実に努められたい。

給食運営事業では、推定値による給食残渣量において、特別支援学校の残渣は、昨年度に引き続き目標値を達成できた。一方で幼稚園では目標値よりかなり多く、小学校及び中学校でも目標値よりも少し多かった。献立の内容や使用する食材などの工夫により給食残渣量を減少し、食育を意識した取組を続けることを期待する。

小学生自然体験活動事業では、榛名林間学校榛名湖荘において、市内小学5年生が榛名湖周辺の自然に触れる自然体験活動を日帰りで行った。「榛名湖ウオーク」や「登山」のプログラムにより榛名湖周辺の豊かな自然に触れ合えたことは、心身ともに健康な子どもの育成につながる取組であるとともに、地域の自然を活用した教育として評価できる。今後も各学校の実情に応じた安全で質の高い自然体験活動を提供し、児童同士の協働、自主性を育む機会となるよう、一層の工夫・改善を行うことを期待する。また、宿泊することで得られる集団活動における自主性や協働、規律などを育む活動の意義を踏まえ、感染症対策を十分講じた上で宿泊体験活動の実施を引き続き検討されたい。

「健康教育」啓発事業では、各校がエイズパネルを作成し、市庁舎1階ロビー、総合保健センター1階ロビー及び各支所での展示を行った。縮小開催ではあるが啓発活動を行ったことは評価できる。今後も事業内容の検討や精選などを通じて、学校・家庭・地域が連携し効果的に事業目的の達成ができるよう、事業の充実に努められたい。

★施策の視点3 安全で多機能な教育環境づくりの推進

学校施設改修事業及び学校施設整備事業では、トイレ洋式化工事のほか、体育館空調設置工事に着手するなど、機能的で快適な教育環境を創出するための事業が実施されていると評価できる。緊急性等を勘案して工事を行うとともに、優先順位を付けて予算を計画的に配分し、効果的に事業に取り組むことを期待する。

学校体育施設開放事業では、多くの市民が身近にスポーツを親しむことができる場として利用し、人々の交流を促進することができた。市民がスポーツやレクリエーション活動を通じて、幸福で豊かな生活を営むことができるよう、引き続き事業の周知に努めるとともに、市民のスポーツ環境の整備や施設の安全管理の徹底に努められたい。

★施策の視点4 地域力を育む社会教育の充実

地区推進体制整備事業では、生涯学習推進員が関わった地域活動の事業数が増加し、参加者も前年

度の倍を超える人数となり、目標値を大きく上回った。引き続き事業の充実を図り、推進員の活動が更に地域住民に理解されるよう努められたい。

公民館運営事業では、感染症対策を講じながら公民館活動を継続し、インターネットの活用や地域の実情に合わせた事業に取り組み、公民館利用者、公民館主催事業への参加者がともに前年度より増加し、回復傾向にある。引き続き地域の諸団体との共催事業の再開を図るなど地域の特色を生かした事業により一層取り組み、住民が集い活動する地域の拠点としての役割を果たすことを期待する。

生涯学習推進事業では、生涯学習フェスティバルの入場者を昨年度同様会場の収容定員の50%以下に制限するなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努めた。生涯学習推進研究事業は、コロナ禍で中止した事業の再開により参加者数は前年度を上回っている。出前講座も講座内容を充実させることで、受講者数は増加しており、市民の学習意欲の高まりが感じられる。リニューアルした「まなびネットたかさき」の更なる運用の拡充に取り組みすることで、市民活動の支援や情報の発信に努められたい。地域人材登録活用事業は、コロナ禍による利用自粛を経験した市民が事業を再開し学習意欲が高まってきたことから、受講者数が増加した。引き続き市民の多様なニーズに応え積極的な学習の支援に努められたい。高崎学検定事業は、コロナ禍でも安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、受検者数、新規受検者割合ともに増加傾向が見られた。今後も市民主体の生涯学習を推進するために、市民の学習の契機となるような取組を期待する。

人権文化創造事業では、コロナの影響により一部の事業の開催を見送り、参加者数が目標値に届かなかったが、前年度に比べると増えている。講座の内容を参加者がより身近に感じられるテーマに選定したことや、短時間でもテーマに迫れるように工夫したことにより、参加者の満足度では高い数値を維持している。また、事業において、対面機会を減らすことや交流館の利用日誌など利用者の健康安全面にも配慮することで、活動が継続できている。今後も講座の企画にあたり、前年度のアンケート結果を考察し、市民の実態把握や地域の課題・実情を理解し、参加意義を感じられるような事業の充実に努められたい。

家庭教育支援事業では、昨年度に引き続きコロナの影響から人数制限して事業を開催したため、参加者数は微増に留まっているものの、参加者の満足度を見ると依然として高い評価を得ている。市民が子育てに抱く悩みや不安の解消に向け、子育てに関わる全ての人が参加しやすいよう、平日だけではなく休日開催の講座も設定したことや、子育て相談の時間を設けるなど、参加者同士や参加者と講師とのふれ合う機会がつかれるよう、参加体験型の講座を展開したこと、「まなびネットたかさき」や「子育て情報誌(すくいく)」など家庭教育支援の情報提供を行っていることも評価できる。今後もアンケートを通して市民のニーズを反映した事業となるよう継続して努められたい。

視聴覚教育事業では、不特定多数を招く事業は開催を見送ったが、感染症対策を講じて開催できた事業で参加者数の目標値を達成できた。市民が活用しやすい教材・教具の環境整備なども含めて、更に市民の学習要求に応じた事業内容になるよう努められたい。

公民館整備事業及び社会教育施設改修事業では、既存施設の老朽化対策として修繕(補修)工事を行った。施設の安全性・利便性を確保するため、計画的な補修と適切な維持管理に努められたい。

市民活動センター管理運営事業では、コロナ禍でも施設を安心して利用できるように心がけたことや、市民の学習活動が高まっていることも受けて、利用者数が増加に転じた。引き続き市民主体の生涯学習活動の拠点となるために、市民の学習意欲を引き出す事業に積極的に取り組むことを期待する。

図書館管理運営事業では、感染症対策や図書館システムの入替えによる臨時休館のため個人貸出点数及び貸出人数が前年度より減少しているが、多読英語本の充実や活字を読むことが困難な利用者

に対し資料が提供でき、市民の幅広い学習ニーズの対応に一定の成果ができていていると考えられる。資料の収集やサービスの一層の充実を図り、市民の生涯学習を支援し、市民の生活に寄り添い役立つ図書館づくりを目指されたい。

市民生活に役立つ図書館づくり事業では、レファレンスサービスに力を入れ、国立国会図書館が運用するレファレンス協同データベースへの積極的な登録・公開がされるとともに、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、高崎市の貴重な資料をデジタル画像として広く公開していることは評価できる。今後も更なるレファレンスサービスの拡充を図られることを期待する。

子どもの読書活動推進事業では、研修の実施や「としょかん通信」を発行して、学校との連携を密にすることで、より学習に適した資料を提供でき、授業でのよりよい活用につながっている。

関係諸機関との連携事業では、高崎フィルムコミッション等と企画展示を実施して連携を図り、また、公開が困難な貴重な歴史的資料を群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーで画像を追加公開することにより、市民にさまざまな行政に関する情報を提供している。今後も家庭、地域、学校、図書館等が連携・協力して読書活動の推進に努められたい。

★施策の視点5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財保存活用地域計画の策定・推進事業では、この計画の意義の周知に努めるとともに、策定に向けての情報収集や資料整理を着実に進めることで、文化財への市民の関心を高める取組になることを期待する。

日高遺跡保存整備事業では、JR上越線南側区域の整備を着実に進めるとともに、上越線北側区域の適切な管理と更なる活用を通して、遺跡への関心を高め、市民が楽しみながら学べる場の提供を図られたい。

箕輪城跡保存整備事業では、本丸の整備工事が着実に進められ、令和3年度末に本丸・蔵屋敷間の木橋が完成し、ホームページや現地案内看板などを通じて周知したことで、更に市民の関心が高まっている。引き続き計画的に整備事業を進め、多くの人々が集う史跡公園になるよう努められたい。

北谷遺跡保存整備事業では、公有地化が着実に推進されており、今後も史跡指定地の公有地化を進め、適切に保存管理することで、市民の関心に応じた事業となるよう努められたい。

上野国多胡郡正倉跡保存整備事業では、着実に公有地化を進めるとともに、史跡指定地の保存管理を行い、市民の期待に応える事業となるよう努められたい。

山名古墳群保存整備事業では、適切な維持管理が実施されている。今後も近隣の文化財との連携を図り、多様なニーズに応えるべく環境整備や新たな事業展開の検討に努められたい。

「世界の記憶 上野三碑」関連事業では、ユネスコ「世界の記憶」登録5周年記念事業として、感染症対策を講じながら、上野三碑の公開、第1回上野三碑かるた大会や、かるた原画・原書展などを実施したことは、子どもたちを含む市民が文化財に親しみ、より身近に感じられる機会を提供した事業と評価できる。今後もユネスコ「世界の記憶」としての価値の発信に取り組み、積極的な事業展開に努め、市民の要望に応えられたい。

文化財保存活用事業及び埋蔵文化財調査事業では、前橋市との連携事業文化財展を開催し、来場者数を維持することが出来た。今後も両市の特色ある文化財を親しめる機会の創出に努められたい。

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業では新たな調査成果が上がっている。上野国分尼寺跡範囲確認調査事業では発掘調査報告書を刊行し、その調査成果を市民に対し積極的に公開していると認められる。今後も継続して発掘調査を行い、新たな発見と成果の公開に努められたい。

文化財調査事業では、着実に調査が取り組んでいると認められる。今後も指定文化財の適切な管理と併せて、未指定や無形の文化財も含めた文化財・文化資源全般の更なる調査の充実を図られたい。

歴史民俗資料館運営事業、観音塚考古資料館運営事業、かみつけの里博物館運営事業、多胡碑記念館運営事業及び吉井郷土資料館運営事業では、体験学習の実施や企画展、講演会の開催など、感染症対策を講じながら市民の関心に応えるための取組を実施している。今後もこうした施策をより積極的に展開し、市民に強く支持される館の運営に努められたい。

埋蔵文化財センター整備事業では、発掘された出土品や関連資料を適切に保存管理するため必要な措置の検討に努められたい。

3 おわりに

令和3年度の事業に引き続き、令和4年度の事業もコロナ禍による制約を前提として策定された計画に基づき実施されたが、様々な工夫を凝らしながら各事業に取り組まれた各方面の関係者の尽力にまずは心より敬意を表したい。

全体として成果があげられていることは、各事業の実施回数や参加者数の回復・増加に顕著に表れている。ALTによる延べ授業時間数、学力アップ大作戦の参加児童生徒数及び延べ開催回数、人権教育講演会の参加者数、教育調査研究・研修事業への参加者数、キャリア教育に係る体験学習の実施回数、助産師による授業・性教育講演会及び薬物乱用防止講演会の実施校数、学校体育施設の利用者数、生涯学習推進員が関わった地域活動への参加者数、公民館の利用者数及び公民館主催事業の参加者数、心豊かな地域づくりのための懇談会及び人権教育講座の参加者数、市民活動センターの利用者数、上野三碑一般公開の見学者数、歴史民俗資料館の入館者数等々、数多くの指標において令和3年度よりも改善が顕著である。市民の確かなニーズを前提として、関係者の工夫と尽力の成果といえる。ただし、どの程度各事業の実施上の工夫が参加者数の増加に結びついているのかについては、今後の状況も注視しながら見極めていく必要があるであろう。

コロナ禍において急速に進行した社会の変化としては、DX化があげられるであろう。この変化自体はコロナ禍以前から進行していたが、コロナ禍において一気に加速したことは否定できない。この変化は、コロナ禍への一時的な対応にとどまらずに、不可逆的なものでもあるようである。令和2～3年度にコロナ禍対応のためにとられた様々な対応策のうち、ポスト・コロナにあっても確実に定着していくと思われるものが、令和4年度の事業実施のプロセスのなかで次第に見えてきたように思われる。オンライン会議システムが、教職員の研修、いじめ防止担当教諭の研修会、高校における国際教育推進事業においてにおいて活用されたことや、また、1人1台タブレット端末の活用によって授業改善が進められたこと、さらに公民館においてポケットWi-Fiを活用して公民館と谷川岳を繋ぎ自然環境について学ぶ事業が実施されたこと、等々があげられる。

もちろん、ICTを利用したコミュニケーションはすべての対面で行われるコミュニケーションにとって代わるものではなく、それぞれにメリット／デメリットがあることは確かであり、これらを見極めながら利用することが肝要である。また、ICTの活用が急に加速されたために、個々人の間で、また組織の間において技術と知識の格差が生じていることも大きな課題であり、物的な基盤整備だけでなく、それらを利用する側の技術・知識の学習も伴わなければならないであろう。令和4年度の事業の実施に当たって、こうした課題についても関係者が十分意識しながら取り組まれている様子が伺える点は高く評価したい。特に教育調査研究・研修事業において研修への参加者数が大幅に増加できたのは、研修内容や受講者の実態に応じた研修形態（対面・集合型、リアルタイム型、オンデマンド型）

や、オンライン会議システムを利用した受講者同士の交流が設計されたことによるところが大きいと考えられる。また、令和2年度に作成・発行された「高崎G I G Aスクール構想における授業実践」に続く発展編として「高崎G I G Aスクール構想における授業実践Ⅱ」が作成・発行されたことは、この間の経験を踏まえたさらなるICTを活用した授業改善を目指すものとして高く評価できる。今後は、個々の学校の現場で取り組まれている改善のアイデアや現場が直面している課題に関する情報を一層すくいあげて整理し、これらの情報に現場の教員がよりアクセスしやすくなることを期待したい。また、タブレット端末の設定に地域人材が活用されるなど、地域社会全体が協力しながら社会の変化への対応に取り組んでいけるような仕組みづくりもなされているようで、こうした取り組みには今後も期待したい。

もちろん、特筆すべきはICTの活用だけではない。コロナ禍にありながらも、着実に改善にむけての取り組みが行われ、創意工夫によって新味を出して成果をあげている事業にも着目しておきたい。たとえば、中学校の4技能型外部試験において連続して前年度を上回る好成績につなげている英語教育指導事業、国際教育推進事業における英検準2級以上の取得者数（延べ人数）の増加、いじめ防止対策事業において、いじめ等でつらいときのサインの出し方と受け止め方である「高崎サイン」と「高崎サインの受け止め方」が策定されたこと、上野三碑ユネスコ登録5周年事業としての上野三碑の公開やかるた大会の開催等、をあげることができよう。また、全日本学校歯科保健優良校表彰で小学校1校、中学校1校が奨励賞を受賞していることも、長年にわたって児童の健康管理や保健教育を通じて健康管理に対する児童の意識を高めてきたことが実ったものであろう。また、SDGsに向けた取組として総合的な学習の時間等で地域人材が招かれるなど、学校教育においても地域人材の活用が進められていることにも注目すべきであろう。

コロナ禍が人びとの生活に及ぼしたもっとも大きな影響のひとつは、人びとの間のコミュニケーションやそのネットワークの寸断であり、そしてまた、そうした状況の下で社会の中に存在する様々な格差が認知されたことにある。コロナ禍への対応策の要のひとつは、そうしたコミュニケーションやネットワークの寸断をいかに回復するのか、そしてそこからはじき出されてしまいそうな人びとを救い上げて、人びとの間の絆を回復することにあつたように思われる。教育委員会の基本的な役割が、生涯学習社会における教育に対する市民の期待に応えるために、ハードとソフトの両面で基盤を整備することにより、市民のネットワークおよびコミュニティの構築を媒介することにあるのだとすれば、コロナ禍の経験は、改めて教育委員会の諸事業が地域社会にとって不可欠のものであることを認識する機会となった。市民を取り残すことなく地域社会に包摂していく施策が求められている。令和5年5月には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となったが、ポストコロナにあつても、地域が有する物的・人的資源を掘り起こし市民のネットワークとコミュニティを一層活性化させることに、関係者各位が取り組まれることを期待したい。

公立大学法人高崎経済大学
経済学部教授 唐澤 達之

VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性

本報告書に記載した点検・評価は、令和4年度の教育行政方針に掲げられた取組について実施したもので、5つの施策の視点に基づく事業の実施状況等についての評価検証を行いました。

令和4年度事業については、引き続き新型コロナウイルス感染症が大きな影響を及ぼす中で、コロナ禍の長期化と事業実施に対する影響を前提として策定した目標と計画に基づいて、可能な限り事業の本質に近づくことを目指し、各事業に取り組みました。なかでも、感染状況や実情に応じてオンラインと対面の選択により活動の再開を進められたことは、双方のメリットを活用しながら一定の成果を上げました。また、英語教育指導事業は、ALTの有効活用による着実な事業の推進が4技能型外部試験での好成績に結びつき、「世界の記憶 上野三碑」関連事業は、上野三碑ユネスコ登録5周年記念事業として、第1回上野三碑かるた大会を開催し、上野三碑をより身近に感じられる機会を提供して普及を図るなど、取り組んできた結果が成果につながったものと考えられます。

一方で、コロナ禍の影響があるとはいえ、参加者数等が減少した事業や目標が達成されていない事業も認められており、これらの事業については、点検・評価による検証等を踏まえ、より一層の改善に努めます。

今後については、学識経験者からの提言のとおり、コロナ禍の経験を生かし、市民のネットワークとコミュニティを一層活性化させる取組を行うとともに、ICTの活用と対面でのコミュニケーションによる効果を見極め、本市が基本方針の一つに掲げる「教育と人づくり」の実現に向けて、より質の高い教育を目指していきます。

生涯学習都市宣言

わたくしたち高崎市民は
生きとし生けるものが共に生き
自然と人間と経済の調和する
文化の香り高い
豊かなまちづくりをめざします

ひとりひとりが
自らの人間性を高めるため
生きがいのある人生を求めため
あすをひらく意欲に燃えて
生涯学び続けるよう努めます

ここに
いつでも どこでも だれでも
たのしく学べるまち
「生涯学習都市高崎」を宣言します

平成7年12月2日制定

人権尊重都市宣言

人はだれでも、一人ひとりかけがえのない存在として尊重され、豊かに、健康で幸せな生活を営む権利をもっています。この基本的人権は、いかなる理由があっても侵害されるものではありません。

わが国では、日本国憲法に明示されている基本的人権の確立のため、人権擁護のさまざまな努力が続けられてきました。いまや、地球規模の交流時代の中で、人権の尊重がいつそう強い社会的要請にまで高まっています。

私たちは、すべての市民の人権を等しく保障するために、平和及び人権尊重について、共に学び行動し、明るい民主的社会的実現を図る必要があります。

ここに、私たち市民は、憲法のかかげる平和及び人権の確立とその擁護のための活動を推進し、人と人とのふれあいを大切にし、いたわりの心がゆきわたる市民生活の充実した高崎市を築くために、「人権尊重都市」を宣言します。

平成7年11月30日制定

核兵器廃絶平和都市宣言

私たち高崎市民は、ふるさと高崎を愛し、しあわせがみんなに広がるまちづくりを、未来への道しるべとしています。

しかし、いま私たちの生活に大きな暗い影をおとしているものがあります。

それは、人類を滅亡におとし入れる核兵器です。

この核兵器の廃絶こそ、私たち高崎市民の願いです。

私たちは、平和を愛するすべての国の人々とともに、真の永久平和を実現することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和61年3月5日制定

たかさきこども憲章

わたしたち高崎の子どもは、自分たちの育った愛するこのまちで、緑いっぱいの環境や伝統的な文化を守り、夢や希望にあふれる未来をつくるための道しるべとして、市制110周年を記念し、この「たかさきこども憲章」を定めます。

わたしたちは、一人ひとりの気持ちを考え、笑顔いっぱいの平和なまちにしていきます。

わたしたちは、自然を大切に、緑あふれるきれいなまちをつくっていきます。

わたしたちは、地域の伝統を守り、高崎の新しい文化をつくっていきます。

わたしたちは、思いやりや感謝の気持ちを忘れず、人と人とのつながりを大切にしていきます。

わたしたちは、夢をかなえるために自分を信じ、努力と挑戦をしていきます。

平成22年2月13日制定

こども都市宣言

明日の高崎、そして世界を担うのは、子どもたちです。

市民が育て、守ってきた伝統や精神、自然環境を受け継ぎ、子どもたち一人ひとりが、たくましく心豊かに成長することは、わたしたち高崎市民の願いです。

この願いを実現するために、わたしたちは安心して子どもを産み育てることができるまちづくりに取り組み、子どもの人権を尊重し、子どもたちが様々な可能性に挑戦できる社会をつくっていきます。

高崎市民がともに力を合わせ、大きな心で子どもを見守り、家庭、学校をはじめ地域社会全体で子どもを育てていくことを決意し、ここに「こどもをはぐくむ都市高崎」を宣言します。

平成23年4月1日制定

令和5年度(2023年度)
教育委員会の点検・評価報告書

令和4年度(2022年度)事業対象

発行 高崎市教育委員会
370-8501 高崎市高松町35番地1
電話 027-321-1291
FAX 027-328-2261
E-mail ky-soumu@city.takasaki.gunma.jp
編集 高崎市教育委員会事務局